明治四十一年九月二十日發行

（明治二十年十一月本會創立）

婦人衛生雜誌

第二百二十六號

第三種郵便物認可明治廿六年四月四日
每月一回二十日發行
内務省許可明治二十一年二月二十八日

私立大日本婦人衛生會

婦人衛生雜誌

第貳百貳拾六號目次

講演

叢談

家庭衛生

質疑

雜報

大日本婦人衛生會記事

大日本婦人衛生會

十月例會通知

來る十月三日（第一土曜日）午後一時半より神田區一ツ橋通り女子職業學校内に於て例會を開き左の講話有之候間萬障御繰合せ御知友御誘引御來會被下度候也

一火災に對する婦人の責任　　警視廳消防機關士 機械課長　土田剛之助君

一盲腸炎に就て　　醫學士　橋本左武郎君

明治四十一年九月　　私立大日本婦人衛生會

◉會　告◉

◉會費未納の御方は會計整理の困難を察せられ本年十二月迄の前金相添へ至急本會事務所へ宛御送金被下度候

◉前金切れの御方は此際御送金被下度候也

本會の振替貯金口座番號一〇六〇〇番に付右番號を御承知の上所在の郵便局に於て該用紙御請取被下指定の欄内へ送金高、拂込人住所氏名、及び加入者住所氏名（即ち本會）等を記入し同時に金圓御拂込相成候はゞ直ちに本會へ送金無料にて相屆き且つ途中紛失及び盜難の憂ひも無之候又該用紙裏面に通信文欄有之候間他に用事ある節は何なりとも御記入差支無之候、右の如く拂込人に取りては安全、輕便、經濟等一擧にして種々の利益ある便法に付自今該法を御利用被下度此段會員諸姉に稟告致候也

〇〔七月發行の本誌〕には會員諸姉の御便宜を謀り振替貯金拂込用紙を添付致置候間そを御用ゐ被下度候

〇爲替御送附の節は本會事務所宛にて麹町區富士見町郵便局へ御振出しを乞ふ

私立大日本婦人衛生會

設立趣意書

凡そ人として此世にありては徒に生けるのみをもて足れりとするにはあらずかならずや智識を磨き人たるの本分を盡くし幸福快樂のうちに一生を送らんを皆ともに希はざるはあらじされども其身健康にあらざれば此生活を得んこといと易からずこれ衛生の道の一日も忽にすべからざる所以なりとす

抑も〳〵衛生の法は一にして足らずとはいへども衣食住の改善育兒及看病法等の如きはいとも緊要の事にして皆我等婦人のもつぱら學ぶべき所其責任亦重しと云ふべし今や婦人の會合相謀りて起り婦人社會も漸く其の面目を改めんとするは眞に悦ばしきことなりされども夫の衛生の事に至りては更に注意を慮かざるもの、如くまことに口惜しきことなり因りて頃日同志婦人集ひ謀り一會を設け名けて私立大日本婦人衛生會といひ毎月一回集會を開き學識經驗ある人々に衛生上諸般の講義演説談話を乞ひ互に相研究し尚之を筆記して册子を編輯し會員に分ち聊か同胞の爲めに盡すあらんとす茲に本會の旨趣の梗概を叙べて廣く江湖の諸愛姉に告げ其贊成を仰ふぐことしかり

明治二十年十一月

首唱者總代

私立大日本婦人衛生會規則摘要

（明治廿二年十二月改正）

第一條　目的　本會の目的は汎く婦女子をして人生の健康を保持する方法を講究し衛生上の智識を開發せしめ随て社會全般の幸福を增進するにあり●第二條　本會は私立大日本婦人衛生會と稱し之を東京に置き地方に便宜支會を設く●第三條　本會々員たらんと欲する婦人は何人にても入會することを得●第四條　入會の者には姓名族籍住所及會員の種類を明記し本會事務所に申込まるべし入會の者には會員章を交付す（交付手續は本會に詳なり）入會後轉居等あるときは速に其旨事務所に報知せらるべし●第五條　會員を分ちて終身、特別及通常の三種とす、終身會員は一時に金廿五圓以上特別會員は一ケ月金三拾錢以上、通常會員は一ケ月金拾五錢を納むる者とす●第六條　男子にして本會の旨趣を贊成する者は之を贊成員とす其會費は本會員に同じ但本會に功勞ある者又は本會に於て特に贊成員たることを認みたる節は役員の協議に依り無會費とすることあるべし●第七條　會員は本會に於て毎月發刊する雜誌を無料にて受ることを得●第八條　退會せんとする者は其旨本會事務所に報知し死亡する時は親戚知友より通知せらるべし但既納の會費は總て返戻せず●第九條　本會に推戴員を置き其中より總裁一名を推し皇族の妃殿下に所出るものとす●第十條　本會に左の役員を置く會長一名、副會長二名、幹事七名、評議員二十五名、書記若干名●第十一條　會長副會長幹事評議員は隔年三月の總會に於て會員の投票を以て之を選擧し書記は幹事の推薦に依り會長之を命ず但書記は都合に由り會員外の婦人若くは男子に託することあるべし●第十二條　會長は本會を總理し副會長は會長を補佐し會長事故ある時は之を代理し幹事は會務を掌理し評議員は庶要なる事務を評議し書記は役員の命を受け諸記錄雜務を掌る幹事の分課を設け第一會計、第二編輯出版、第三庶務とす●第十三條　臨時指名委員の件●第十四條　會長副會長幹事評議員の任期は二ヶ年とす但期滿選することを得若し任期中缺員を生ずるときは次點者を以て補缺す●第十五條　會長副會長幹事評議員は無給とす書記には相當の報酬を給す●第十六條　集會は例會總會及評議員會とす集會は八九月を除くの外毎月一回とし總會は三月に之を開く若し緊要の事あるときは臨時に總會を開くことあるべし又毎秋二回會員相互の親睦の爲め園遊會を開くことあるべし●第十七條　例會學識經驗ある人々に衛生上の講義演説談話を囑托し會員知己の婦人を陪聽せしむることを得●第十八條　會員は家族の女子若くは[illegible]本會々[illegible]き事）●第十九條　[illegible]改正其他要務の件[illegible]支決算[illegible]有金は本會の名義を以て三井銀行に預くるものとす●第廿三條　本會の收支は總て會計擔任の幹事檢印を要するものとす●第廿四條　會計は一ケ年毎に決算し翌年三月總會に報告すべし

支會●第廿五條　地方に於て本會々員十名以上發起者あるときは其規則を定め本會長の承認を受け支會を設立することを得●第廿六條　本會々員にして支會を設立せんとするときは發起者の姓名を記載し本會に出すべし時後員徴增減あるときは其姓名を支會より本會事務所に報告すべし本會々員にして支會に加入したる者の會費は本會に納付す其會費中より支會の規定に依るものとす●第廿七條　支會に付屬の會員と稱することを得●第廿八條　本會の雜誌は支會に回送すべき限を以て其會費を支會より本會に進付すべし支會限りの會員にして雜誌を請求する者に就きても亦同し●第廿九條　支會は毎會の都度其狀況を詳に本會に報告すべし●雜件

第三十條　本會は毎月一回雜誌を發刊し之を會員に配附すべし●第卅一條　會員又は會員外の者にして金圓若くは書籍物品等を本會に寄附する者あるときは本會々長の名を以て謝状を贈り寄附者の姓名及品目を雜誌に登錄し尚本會雜誌を以て報告すべし●第卅二條　會費金は受領證を交付すべしと雖も地方會員にして小爲替又は郵券にて納むるものは受領證送費として別に返信料を添へらるべし（郵券送一割增）●第卅三條　會費は東京府下に限り毎月領收人を差出すべし地方會員は總て前金とし小爲替にて本會事務所々在の郵便局（麹町區富士見町郵便取扱所宛）振出しあるべし●第卅四條　會員中若し本會の障碍となるべき所爲ある者又は屡く會費を督促するも納付せざる者あるときは會長評議會の決議を經て除名し若しくは廣告することあるべし

東京市麹町區富士見町二丁目廿二番地

私立大日本婦人衛生會

○役員姓名

總裁　東伏見宮依仁親王妃周子殿下
會長　侯爵夫人　鍋島榮子
副會長　男爵夫人　濱尾作子
幹事（いろは順）　鳩山春子
同　羽田三緒子
同　岡田德子
同　高木かう子
同　山本多穗子
同　松平芳子
同　三浦政子
評議員　石川貞子
同　岩下ゆか子
同　濱田捨子
同　長谷川仲子
同　仁禮壽賀子
同　西升子
同　穗積歌子
同　土肥多趣子
同　緒方悦子
同　岡山とし子
同　小川孝子
同　男爵夫人　加藤鈴子
同　片山龜子
同　吉武輝枝子
同　丹波貞子
同　高橋瑛子
同　田村きよ子
同　男爵夫人　南部限子
同　中濱芳子
評議員　子爵夫人　山口貞子
同　松井正子
同　岸澄子
同　三宅藤子
同　宮本樂子
同　宮下咲子

●支會、新潟、山形、宇都宮、茨城、高崎、米澤

本會特別贊成員

（●は本會の爲め講演又は執筆せられし諸氏）

醫學博士　理學博士　ドクトル　醫學博士　ドクトル　醫學博士　理學博士　内科 赤十字社　醫學士　醫學士　醫學士　貴族院議員　醫學博士　法學博士　東京　醫學博士　新潟　小兒科　醫學博士　醫學博士　醫學博士　醫學博士　步兵中佐　醫學博士　醫學博士

入澤達吉君　飯島魁君　伊澤信平君　色川圀士君　伊東祐彦君　飯盛挺造君　伊藤隼三君　石川千代松君　岩井禎造君　石原久君　磐瀬雄一君　石原喜久太郎君　濱尾新君　濱田玄達君　鳩山和夫君　秩原綱四郎君　芳賀榮次郎君　長谷川泰君　長谷川一詮君　小原頼之君　岡田榮吉君　林春雄君　佐藤達次郎君　緒方正規君　堀内文次郎君　土肥慶藏君　岡田和一郎君

醫學博士　醫學士　醫學博士　一等藥劑官　醫學士　醫學士　男爵　醫學博士　醫學士　醫學博士　醫學博士　醫學士　醫學博士　醫學博士　醫學博士　醫學士　醫學士　醫學博士　ドクトル　醫學博士　法學博士　醫學博士　新潟　男爵　醫學士　醫學士　新潟病院長　藥學博士　醫學士　藥學博士　醫學士　醫學博士　醫學士　二等軍醫正　醫學士　三等軍醫正　大日本教育會長　理學博士　醫學博士　男爵

大澤謙二君　大西秀治君　大澤岳太郎君　恩田重信君　若杉喜三郎君　渡邊房吉君　加藤弘之君　加藤照麿君　賀古鶴所君　河本重次郎君　片山國嘉君　川上雅吉君　櫻田龜一郎君　金杉英五郎君　笠原光興君　唐澤光德君　河野衞君　高橋順太郎君　高山紀齋君　高木兼寛君　高木惣三君　田代義德君　田代亮助君　高崎正風君　竹中成遊君　高田耕安君　高橋辰五郎君　丹波敬三君　高橋貞頎君　田原良純君　田村光顯君　久保猪之吉君　米山彦郎君　星野篠光君　宮本叔君　横井忠國君　辻新次君　坪井正五郎君　長與稱吉君　南部袁男君

理學博士　醫學博士　藥學博士　醫學士　醫學士　海軍中佐　醫學士　醫學博士　醫學博士　醫學博士　醫學士　醫學士　岡山　傳染病研究所技手　ドクトル　ドクトル　盲啞學校長　廣島　醫學士　東京　南滿洲鐵道總裁　元東京大學教授　醫學士　文部書記官　醫學士　醫學士　子爵　前軍醫總監　ドクトル　高崎醫會長　産科婦人科　ドクトル　醫學博士　醫學士　醫學博士　ドクトル　醫學博士　醫學博士　醫學士　ドクトル

長井長義君　遠山椿吉君　中濱東一郎君　黒田玄道君　栗本庸勝君　小笠原長生君　村松鐵三君　隈川宗雄君　栗本東明君　山田鐵三君　山田弘倫君　山根正次君　山川春二君　丸山長四郎君　松山陽太郎君　小此木信六郎君　小西信八君　小泉貫君　古川榮君　布施正顯君　後藤新平君　エ、ベルツ君　甲野棐君　寺田勇吉君　寺田物作君　寺田織尾君　秋元興朝君　足立寛君　富士川游君　土谷全次君　水原漸君　久保田誠廣君　佐々木政吉君　瀧田決君　朝倉文三君　朝山義六君　升要勝剛君　佐藤三吉君　櫻井郁二郎君　佐伯理一郎君

醫學博士　醫學博士　醫學士　醫學博士　醫學博士　醫學士　醫學博士　ドクトル　醫學博士　醫學士　醫學博士　醫學博士　醫學博士　小兒科專門　理學博士　醫學博士　醫學博士　醫學博士　伯爵　醫學博士　醫學博士　ドクトル　ドクトル　醫學士　醫學博士　醫學博士　醫學士　醫學士　醫學博士　ミス　ミス　ミセス　ドクトル　醫學士　醫學士　醫學博士　ドクトル　ドクトル　醫學士

榊順次郎君　榊保三郎君　佐藤得齋君　櫻井恒次郎君　桐淵鏡次君　北村楠造君　北島多一君　北川乙治郎君　木下正中君　北島小太郎君　北里柴三郎君　三浦守治君　三浦謹之助君　宮本仲君　箕作佳吉君　三島通良君　三宅秀君　三輪信太郎君　土方久元君　島村俊一君　弘田長君　月高昂君　須田卓爾君　渡川德君　木村德衞君　森林太郎君　征川三男三君　波多野郎君　奥秀三君　リツデル　ヒユース　コーツ　菊池循一君　橋本左武郎君　鳥居祚作君　土山卯三郎君　佐藤運雄君　西山信光君　澤崎寛制君



飲食物の取締

藥學士　石津利作君　講話

満堂の貴婦人竝びに令孃各位、私は矢張り衛生のことに關係して居りまする者の一人でありまして、今日皆様の前で衛生に關しまする一場の御話を致しまする機會を得ましたのは誠に光榮に存ずる次第でございます、一國の文明は其國の衛生制度、衛生に關係しまする所の設備機關、其他衛生狀態の如何に依てト知することが出來る、卽ち一國の國民の衛生思想の普及竝びに其進歩の程度は、其國の文明の尺度になると云ふことは能く人が言ふ話でございまする、誠に道理のあることでございまして、我國も往年三十七八年の戰役に於きまして、露國と干戈を交へて首尾能く打勝つことが出來まして、其結果世界に於ける一等國の班に列することが出來ましたのは御同樣誠に御目出度いことで肩幅の廣く感ずる次第でございます、固より此戰捷の原因は唯軍事が發達して居つたと云ふばかりが原因でもなからうと思ひます、併ながら日本は軍事が特に他より發達して居ると云ふとは、爭はれない次第であらうと考へます、飜つて他の方面は如何でございませう、殖產興業であるとか或は政治、經濟、其他外交の如きも一等國の名を辱しめないやうに進歩して居りまするか、どうでありませうか、殊に私共の關係して居りまする所の衛生に於ては如何でありませう、是等の點に於きましては遺憾ながら歐米の先進國に比べましたならば大に遜色あることゝ考へまする、何時のことか確に覺えて居りませぬが、長與專齋氏が時の衛生

局長であつた時分は、石黒男爵が虎列拉病の豫防のことに付て獨逸の國に參られました時に、北里博士を介して唯今觀光の爲に來朝して居らるゝ所の有名なるコッホ博士の門を叩いて虎列拉病豫防の方法に付て意見を聞質されたことがあります、其時にコッホ先生に日本の狀態を話す時分に勢ひ日本人の生活、衣食其他の狀態の關係を話さなければならぬ其話をして居る途中に、是は尾籠な御話でありますが、それぢやア排泄物の始末はどうするかと云ふことに至りまして、石黒男も大に其事を話すに躊躇せられたのでありますが、言はぬ譯にいかぬからして實は斯く〳〵の始末をして居る、即ち吾々日本人は排泄物と同居して居るのである、客を招くべき座敷の傍らに排泄物を溜める所もあれば、又吾々の體内に入れる食事を調理する臺所の隣に便所がある所もある、而も時々それを杓にて攪き廻はす次に其排泄物を桶に入れて市中を擔ぎ廻つて持運ぶと云ふ話を石黒男爵がコッホ博士に話された時分に、それは大變だ、さう云ふことをしては虎列拉の流行するのは當然だ其樣なものは少しもいじらすに何時までもソッとして置けと云ふことをコッホ博士が話されたさうです、されば餘程前の話でありますが、其事を話す迄はコッホ博士はそれまでのことはないであらうと考へて居られたのでありますが、其一段になつて其樣に日本の衞生と云ふものは發達して居ないかと云ふやうな顏をせられたと云ふ面白い話を聞いて居りましたが、それから餘程年月も經過して居りますが、其コッホ博士が唯今日本に參られて、二十年以上經過して居る今日此連日の霖雨の際に東京の市街而も場末とは言へないでありませうが、小石川であるとか下谷、淺草の方面に於きまして、下水が氾濫して市街と連絡を通じて一道の川を拵える、溝も臺所も疊の上も一緒になつて居ると云ふ狀態を見られたならば、如何の感を起さるゝでありませうか、コッホ博士の胸の中は推測するに難からぬ次第であらうと考へます、是は強ち政府計りが惡いのでもない

人民一般に責任を負ふて衛生の道を講じて、衛生に於きましても矢張り日本は一等國の名を辱めないやうな域に達せしむることに努めると云ふことは國民一般の責任であるのであります、一體衛生と云ふことは其範圍が非常に廣くありまして、種々の方面に關係を持つて居る、又極く些細なチョッと考へて誠に詰らない小さなことで衛生に餘り關係がないと外觀上見えて居りましても、それが原因となつて後に禍を釀すと云ふことは隨分ないではないのであります、やれペストとか虎列拉、赤痢、其他一般に傳染病が流行すると云ふやうな時分に世の中の人は唯大騒ぎをして其當分は攝生のことを考へるでありませうが、日常の生活に於きまして衣食住の關係などの細かしい點にまで注意が行屆いて居るといふことは少ない、卽ち防疫の方でなしに保健健生のことに人々が平常注意を拂つて居るかどうかと云ふことは甚だ疑はしいのでありまして、衛生の理想とする所は、吾々の健康を維持して病氣に罹らないやうに日常に於て用心すると云ふことにあるのでこれが衛生の極意であらうと考へまする、醫術にしましても直接の目的は無論疾病を治療するにあるのでありましようが、醫術の最高の理想とする所は人間が病氣に罹らぬやうにするのでありまして卽ち豫防の方が大事であるのであります、それで今日は私は醫者でありませぬからして病氣のことは分りませぬが、外觀上餘り衛生に關係がないやうに見えて居りまして、さうして而も實際はさうでなしに關係が頗る深い、又皆さん方が餘り注意なされて居らないであらうと私が考へて居る所のことに付て少しばかり御話をしやうと存じます。

それで特に此『飲食物の取締』と云ふ題目を撰んだ次第でありますが、此衣食住のことは男子よりは寧ろ御婦人方の領分であらうと思ふのです、一家に於きましては、被服であるとか飲食物其他住居の關係は主婦が世話を燒く、其點から考へまするど御婦人方は衣食住の中殊に飲食物のことに就ては常々に能く

注意をせなければならぬものと考へます、一體吾々の生活を維持する爲には、空氣は固より必要ではありまするが、其他に最も必要なるものは飲食物であります、此飲食物が不十分でありまする時分には身體の工合が惡くなり、精神が何となく不機嫌になり、不愉快になる、仕事をするのが何となく煩はしくなります、それに反して適當なる飲食物を取つて榮養が十分でありまする時分には身體の調子が好くなつて、精神は無論快活になつて仕事をするにも渉が行く樣になる、吾々の身體の發育と云ふことに最も關係のあるのは榮養でありますから、榮養と云ふことは衞生上餘程重大の要件としなければなりませぬ粗惡な不適當なる食事を取つて居りますると、身體の各機關は十分に發育することが出來ず、其發達が惡くなりまして、元氣がなく仕事をするのが不愉快になつて參ります、從つて身體全體の發育と云ふものが障碍を來して來る、是は自然の結果でありますが、其他適當の飲食物を取りまして榮養が十分でありますると、吾々の身體は病氣に對する抵抗力が强くなつて來る、こう云ふことは、チヨツと不斷に於ては考へられませぬが是亦必要なことでありまして若し一朝病氣に罹りましても榮養の良い所の人は病氣に耐ゆることが出來る、さうして發熱をしたり、或は病氣の種類に依りましては食事を節するとか、或は食事を斷つ必要が起つて來る、さう云ふやうな飲食物の缺乏に對しましても榮養の不良の人よりも能く耐ゆることが出來る、從つて病氣も矢張り速く恢復すると云ふ理屈になつて來るのであります、それで人間は其身體を維持する爲には種々な食物、動物性のものであるとか、或は植物性の食物、例へば肉であるとか、玉子であるとか野菜であるとか、米麥其他色々の動植物性のものを生のまゝで取ることもあるし、又調理を加へて吾々の身體に輸入することがあります、さう云ふやうなものを一體飲食物と稱へて居る、即ち吾々の身體を榮養するに必要なる所の食物を飲食物と云つて居ります、其他に興奮性

の香味料を取ることがある、例へば酒であるとか茶であるとか珈琲であるとか、胡椒であるとか云ふやうなものを一般に嗜好品と名けて居る、飲食物竝びに此嗜好品は吾々の生活を維持する爲に極めて必要なものでありますが、それと同時に其ものが屢〻病氣の原因になることがないでもないのです、此飲食物竝に嗜好品が惡い爲に消化機關の障碍を來すと云ふやうな例は少なくはないのであります、又それが遠因となつて重い病氣を起しまする出發點になると云ふ例も隨分ある、能く人が胃が惡いとか、或は消化が惡いとか言つて訴へる人が隨分ありますが、さう云ふやうな場合には其人の攝生の惡い爲に、又身體の惡い爲でもありませうが、又屢〻取る所の飲食物の不良の結果に據ることも隨分あります、それで不健康な食事を取つた爲に起る所の病氣と云ふものは餘り屢〻ありまするから却て吾々の注意を免れて居ると云ふに過ぎないのです、例へば堅い物を食ひ過ぎたとか或は其食物の惡い爲に起る所の障碍と云ふものは餘り激しくないものであるが殆んど毎日のように起りまするから吾々が注意を拂はないけれども、それが段々重り〱しましたならば或は重い病氣の遠因とならぬとも限らぬ次第でございます。

それで平常飲食物が惡い爲に起る所の障碍は劇性には來ない、幸のことには直に食慾が減退するとか或は下痢が起るとか云ふやうな事が直に起るからして食物も適量に取るやうに自づと養生をするからそれが自然に治療法となつて癒つて行く、それでもつて吾々が餘り注意しない所から時に據ると飲食物から隨分不時の災を來す例がないではありませぬ、例へば飲食物から來まする病氣の中でも肉の中毒と云ふことがあります、肉の毒に中る場合があります、此肉の中毒と云ふやうなものも劇しい症狀が現はれて參ります、其外見は肉を多く食う所の種族に多いのでありますが、旋毛蟲毒、腸詰肉中毒と云ふ病氣に罹る場合がある、さう云ふやうな場合にはナカナカ劇しい症狀を起すのであります、それ等の點か

ら考へて見まするど餘程注意を拂はなければならぬ次第でございます、又多くの飮食物はそれを適當なる水分と、それから溫度が適當でありまする時分には自然に空氣中に放置して置くと腐敗を致します、例へば野菜が腐敗しまして不快の味を出す所の物が出來る、或は澱粉質其外砂糖の澤山入つて居ります所の食物、例へば麵麭でありますとか果實のやうなものを打捨つて置くと黴が生えて食することが出來ぬやうになります、其外偶には隨分食物が或る寄生蟲の棲處となることがあります、先程御話いたしました旋毛蟲とか或は嚢蟲、さう云ふやうなものが肉に寄生する、又胞蟲と名けます所の蟲がございまするが、それが動物の肝臟に寄生して居ることがございます、是は極く稀ではございますが、又麥であるとか米であるとか云ふやうな穀物の中に麥角と稱へる有害なる雜草が寄生することがある、さう云ふものが穀物に交つて來ることも隨分あります、其他食物が病原菌の傳播に與つて力ある例と云ふものは決して尠くはない、ペスト虎列拉窒扶斯其他丹毒、結核と云ふやうなものも食物によつて傳染する例も隨分ございます。

それから腐敗と云ふことは是は自然的に起るので唯其保存法が惡い爲に飮食物が腐敗するのであるが、それと趣を異にして時として故意に爲された所の贋造物又不良飮食物の爲に吾々の健康が傷はれる場合が屢々あるのであります、さう云ふやうな譯で此飮食物より吾々が受ける所の健康上の障碍の起る場合と云ふものは實に種々雜多であるので、隨つて飮食物と云ふことに就て吾々は十分に注意を拂つてさう云ふやうな危害を受けないやうに豫防すると云ふやうな工夫を採らなければならぬ、それは何う云ふやうな事をやつたら宜いかと云ふと、尤も飮食物の事でありますから直に衞生上害があるとか無いとか云ふ鑑識の出來るものもあるし、又相當の技術を備へて居る者でないと衞生上の害否贋造とか模造であるとか云ふやうなことが分らぬものも隨分あるのであ

ります、一々それを買求める所の者が各々其良否を鑑別する能力を持つて居ると云ふことは固より六ケ敷い話でありまして、それは總ての場合に出來ることではありませぬ、從つて飲食物の取締と云ふことに付ては政府が取締をすると云ふことが最も適切であつて、而もそれが最も有效であるのです、それで日本に於きましても飲食物に關係しまする所の取締規則と云ふものが發布になつて居つて、飲食物を製造し、或は販賣する際に不正のことのないやうに、又衛生上害になるやうなものが飲食物に混つて來るとか、それを食べると吾々の健康を害すると云ふやうなことのないやうに、政府の方では取締規則を發布して、それに依て取締をして行く、それで飲食物の取締をすることに付きましては先づ適當なる取締規則の發布と云ふことは素より必要である、其取締規則に據りますると之に觸れた者は無論規則違反者として相當の處罰を受けることになつて居ります、唯製造した所のものを處罰するのみならず、斯る衛生上危害を生ずるの虞ある飲食物を販賣する所の者又之を取扱ふ所の者迄も等しく處罰せられるのである、私は知らずに之を製造人から買つたので私は知らないでやつたからして私の罪でないと云ふやうなことの言ひ除けは出來ぬ、飲食物の販賣などをやつて居る者は自分で其商品の良い惡いと云ふことを知らなければならぬ筈である、自分の取扱つて居る商品であるから、其良否と云ふものは自分は覺えて居らなければならぬ、私は自分で知らずに買つて置いたので、是は私の責任でないと云ふやうなことは決して言ひ除けが出來ぬやうに取締規則は出來て居なければならぬ、又さう云ふ風な飲食物に關係しまする所の規則が幾ら嚴重であつても、それを勵行しなければ飲食物取締の目的を達することは無論駄目なことであります、それには市場に賣つて居る所の飲食物を試驗し監視する所の役人が居て市中に販賣せる品物を屢々試驗することが必要であります、是は怪しいと思つた品物を取つて見て一々試驗をする

若し規則違反のものがあれば遠慮なしにそれを處罰して後來さう云ふやうなことのないやうに衞生上に危害を及ぼすやうな飮食物を賣らないやうに取締をする、それ等のことが固より必要でありますが、斯の如く取締規則がいくら嚴重にして完全して居り監視員が十分勉勵して其職責を盡したからとて唯其丈で此の範圍の廣い飮食物の取締が目的通り實行されるものではありませぬ爰に一番大事なことは之を消費する各自が衞生上危害の虞ある飮食物を買求めない樣に注意することであります、飮食物を買ひまする公衆が若し怪しいと思つた場合には早速にそれ等を試驗して貰ひに行政廳なり、或は警視廳であるとか又は衞生試驗所に持つて行つて善惡を確める位にならば誠に結構なことです、卽ち購買者自らも販賣人又は製造人を監督する位置に立つて飮食物を取締ると云ふ風に人民一般が衞生に對する思想が發達して來ることが又實際に必要なことで頗る望ましい事であるのです。

それで市場に賣つて居る飮食物竝に嗜好品は必ず皆善い物ばかりには限らぬ、隨分中には不正な事が行はれるが、その飮食物竝に嗜好品の製造或は販賣の上に於て屢〻行はれる所の不正の行爲を總括して御話をしますると、第一詐欺にて適當なる名稱を附して飮食物を賣る、卽ち名稱を詐稱することがある、左樣な例を申しますならば、極く下等の酒に上等酒のレッテルを貼つて賣つたり、或は又牛肉の中に馬肉を交せて是は牛肉であると言つて賣つて居る、是は卽ち全體が牛肉でないから矢張一種の詐稱です、それから又バタと云ふものは牛乳の中に入つて居る所の脂肪ばかりから拵へたものが本統のバタでありますが、マルガリンと名けまして牛乳の中の脂肪でなしに牛の身體に在る所の脂肪から拵へたバタのやうなものがありますが、それをバタと云ふ名稱を附して賣ると云ふことは矢張是も一種の詐欺である、吾々が能く安いバタを町から買つて來るがそれはレッテルはバタと書いてあるが大概は本統のバ

タでなくしてマルガリンであるのです、其マルガリンにバタと云ふやうな名稱を附けて居れば、即ち一種の詐欺であると云ふやうな種類の不正行爲が隨分飲食物の販賣に於て行はれるのであります。

それから次には實際の品物よりはより良く外觀を其物に付ける、其やうな手段をやる、例へばビールの栓を拔きまして長らく置きまするさ炭酸が立つて味が無くなります、この樣な味を失つた所のビールに沸騰散を加へて炭酸を發生さして眞正のビールであると云ふやうな外觀を付ける、實際の物よりは善良なる外觀を付けて賣ると云ふやうなことも矢張り第二種類の不正の行爲であります。

第三には一部分の贋造と云ふことがあります、是は飲食物に於ては隨分行はれる例であります、直打のない、又直打の廉い物を、或物品に混ぜると、それが爲に其品物の量は増えまするが其の質が非常に粗惡になる、これも亦一種の贋造でございませう、或物の中に這入つて居る所の高價の成分をそれから拔取ると云ふことも矢張り贋造である、其例を申上げまするさ、直打のない物直打の廉い品質を加へて其全體の品質を惡くするを云ふ例としては、胡椒の粉に胡椒の殼を混ぜるさ、詰り胡椒の殼と云ふものは劣等なる品物でありまするからして、それを混ぜて胡椒の殼の這入つてない上等の胡椒であると云つて賣る、是れ則ち贋造である、一部分の贋造であります、それから又先程御話しましたバタにマルガリンを混ぜることも矢張り此部類に屬する一種の贋造であります、それから又オレーフ油と云ふものは直段の高いものでありますが、其中に直段の安い劣等な植物性の油を加へる、菜種の油を加へると云ふやうなこと、それから牛乳の中から脂肪を拔取る、牛乳から脂肪を拔取つて其脂肪をバタの脂肪に使つて、矢張り一部分だけ脂肪を拔取りまして其あとの牛乳を是は上等の牛乳であると云ふ名稱の下に賣る、詰り牛乳を不完全に脱脂したものは脱脂牛乳と云ふ名稱の下に賣ればそれは別段不正の行爲ではありませ

ぬが、一部分の脂肪を拔取つてそれを全乳として賣ると云ふことは矢張り此部類に屬するものであります、それから又眞正の品物に粗惡なる物を混せると云ふことも矢張り此類です。

それから今のは直段の廉い物、或は價の全くないものを加へると云ふ場合でありますが、今度は飲食物の中に直段の廉い而も違つた物で嵩を增したり目方を增す爲に加へることが往々あるのであります、例へば野菜で申しますると、野菜の根に土が附著いて居るやうなことで、土なるものは吾々の食物には全く價のないものである、其土を十分取つて賣らなければならぬ所が其土も取らないで目方を增す爲に付けて置く、是も一つの贋造であります、詰り大根とか蕪などであると直ぐ分りますが土が附著いて居つてもチョッと分らぬと云ふやうな場合には取れば宜しいのでありますが、目方を增し或は嵩を增す爲めに故意と之を取去らずに賣る、外國に於きましては隨分量目のことは八ケ間敷いのであります、日本人が臺所あたりで野菜の類を買つて居る狀況を見ると、隨分量目のことは怪しい程不完全なものでありまして、大きな頭芋のやうなものを升で量つて賣つて居る、此升と云ふものは容積を量るものであるが芋などを升で量つて賣つて居る、吾々の如き實驗室に於て千分の一グラムをさへ天秤で爭つて居るものから考へると實に不思議で堪りませぬ、芋などは一つや二つ間違つた所で大したことはありませぬが、一體から言ふと容積を量るものを持つて來て芋なんぞを量ると云ふやうなことは習慣とは云ひながら可笑なことゝ思ふ、外國ではビーヤホールあたりに行きましても、ビールを盛る所のコップなども一々檢査官が出て來まして、さうして假令ば半「リートル」と稱へて居るが、其ビーヤホールが果して實際の半「リートル」のコップを使用して居るかどうかと云ふことを試驗をする、是れなぞは間違つた所で僅かな量でありますけれども、量目と云ふことに付ては一體に嚴重に取締つて居る、是等に付ても八百屋の持

つて居る量り升と云ふやうなものは一々警視廳から果して正確であるかどうかと云ふことを試驗をする必要があるだらうと思ひます、無論或程度内の誤差は之を許しても宜しいでせうが、矢張り一々さう云ふ風に飲食物の取締に付きましては其等の點までも注意をしなければならぬものと考へます。

それから第四番目には變質して居る所の飲食物、或は健康上有害である物は無論の話、又食べまして嘔吐を催すやうな狀態にある物、それから又變敗して居る品物を混ぜるなんと云ふやうな場合が隨分ないでもありませぬが、例へば獸肉の腐敗して居る物を賣るとか、或は有毒性のバタであるとか、乾酪と云ふやうな物を賣りますとか、或はビールの濁つたものを賣ると云ふやうな場合が之れに屬する。

それから衛生上有害の物としては、飲食物を製造したり、或は製造しまする際に有害性の物、或は腐蝕性の物を防腐劑として混せる、さう云ふやうなことが隨分あります、例へば防腐劑として亞硫酸を混せるとか、それから砂糖菓子でありますと、其内に有毒性の繪具を使つて居るものがあります、是等は衛生上取締をする必要がございます、或は又鑵詰の中に臘付けに使ひまする所の臘の中に多量の鉛が入つて居るとか、或は飲食物を調理するに使ふ所の器又貯藏用器具とか、一般に飲食用の器具とか云ふやうな物も、矢張り飲食物中に毒が入ると云ふ虞れのあるものは其販賣を禁止する必要があります、所が日本に於きましては此飲食物に關係しまする所の取締規則は漸く明治三十三年の法律第十條を以て取締の規則が發布されたのであります、御承知でありませうが、又御存知のない方もありませうから飲食物に關係した所の規則の一通りを御話致します。

詳しいことは拔きに致します、一番最初に飲食物其他の物品取締に關する法律と云ふものが出て居ります、それは飲食物並びに飲食物を拵へるに使ふ所の食器、割烹の器具であるとか、其他の物品にして衛生上危害を生ずる虞れあるもの、是は隨分ボンヤリ

した話でありますが、ボンヤリした所に妙味がありますので却て法律運用の範圍を廣くする利益があります、衞生上危害を生ずる虞れある所の飮食物、或は飮食物用器具、其他飮食物に關係した所の萬般の物品を販賣したり、或は製造したり或はそれを陳列をした者は處罰をする。是が大體の趣意であります其他牛乳營業取締規則でありますとか、又人工甘味質と申しまして、砂糖でないもので、人工で化學者が拵えた甘いものがある、サッカリンのやうなものは普通の砂糖よりは三百倍も四百倍も甘いものである、さう云ふものを砂糖の代りに使ふと云ふやうなことをさせない爲に人工甘味質取締規則が出來て居る、サッカリンと云ふやうなものを使ふと云ふことは衞生上害があるかないかと云ふことは勿論分量は極く僅かでありますから或は害がないでありませうが、其取締の出來ましたのは衞生上よりは寧ろ是は砂糖税の保護の爲に出たことでありまするが、併し人工甘味質と云ふものを砂糖を使ふべき所へ使ふことは外國に於きましても禁じてあります、實際砂糖を使はずに之を使ひまするとよ程經濟的になりまするから不正の商人は屢々之を使ふのであります、處が此は詐欺に相當して居りまするから其行爲を取締る所の規則が發布になつて居ります。

それから飮料水營業取締規則、是はラムネであるとか、レモナーデであるとか、果實水、林檎水であるとか、葡萄水であるとか云ふやうな果實から拵えた水、それから薄荷水であるとか曹達水とか炭酸を含有して居る所の飮料、それ等を取締る爲に此取締規則と云ふものが出て居ります、それから氷や雪などの取締も出て居る、氷雪のやうなものは必ずしも外用に供されるばかりとも限らぬ、食用に供する、氷或は雪は矢張り純良なるものでなければなりませぬ故に之を溶かした水は普通飮料水としての性質を供へて居なければならぬ、氷には黴菌がないかと云ふと、決してさう云ふ譯でなし隨分病氣を起す所の黴菌も矢張り氷の中に入ることがありますから、氷

雪のやうなものをも取締つて居ります。
それから飲食物用器具取締規則といふものがございます、飲食具であるとか、割烹用の器具であるとか、其他飲食物の調製に使ふ所の萬般の器具並びにそれを入れる容器、それから飲食物を量る器具計量器、其他貯藏する器具、それから萬般の飲食物に關係した器具、さう云ふやうなものも矢張り其中に屬しまするが、それ等も衞生上危害を及ぼすやうなものは矢張り取締つて居ります。
それから次に、有害性著色料取締規則、有毒の金屬を含んで居る繪具もありますし、又テール色素とか、ヂニトロクレゾールのやうなものを多量に含んで居る色素で飲食物を著色するとか、又飲食物を入れる器具にさう云ふものを著けることは惡いことになつて居ります、其規則の中に、貯藏野菜或は貯藏果實、鑵に入つて居ります所の野菜、外國から來ます佛蘭西豌豆であるとか隱元とか、さう云ふやうな青い豆類野菜が鑵詰として出來て居る、其貯藏野菜と云ふものゝ中には、御承知でもありませうが、製造致しまする時分に極く色の冴えた如何にも極く新鮮な感を裝はしめて置くと、食べて大變美味いやうな感じがしますからして、極く少量の銅を其野菜の著色に使ふことを許してあります、それで以て青い色を著けまするど如何にも青々として美味いやうな感じがするからそれだけは或分量までは許してあります、其分量は果實であるとか野菜の類は一キログラム、即ち千グラムに付きまして百ミリグラム以下の銅を許してあります、一ミリグラムと云ふと一グラムの千分の一でありますが、其百ミリグラムだけの分量は許してあります、其野菜、果實を拵へる時分に硫酸銅の中にそれを浸して置く、さうすると其銅が野菜に入りまして青々とした色が著いて來る、併し百ミリグラム以上の銅を含んで居るものは此取締規則に違反して居る行爲として罰せられるのであります、其他飲食物防腐劑取締規則と云ふものがありまして民間には色々の防腐劑を使ふ

ことがありまするのを禁じて居ります、飲食物の中には凡て防腐劑と云ふものは一切使つてはいけないことになつて居ります、但し御承知の日本酒の中にサリチル酸を一定の範圍だけは使つて宜いと云ふことになつて居ります、一石の中に幾らのサリチル酸までは構はないと分量では限つてありませぬが試驗方法が制定してあつて、其試驗方法を行つて、多量のサリチル酸があると云ふことを認められる場合にはいけない、併し大體の標準は清酒一石に付き十匁內外までは構はぬことになつて居る、それ以上は許しませぬ是は日本酒現今の釀造法に於きましてはどうしても外國でビールを拵えるか何かするやうな工合に參りませぬので、どうしても不完全な方法でやるのでありますから黴菌が其中に入るのは免かれない、今の釀造法がスッカリ改良されてビールを拵えるやうな釀造法が出來た曉には無論構はぬでありますが、今の所では先づ唯今の方法で造らなければならぬ、それで此清酒から上る所の税と云ふものは非常に大きいものでありまして、假に陸軍海軍の經費を償ふに餘ある程酒税と云ふものが多額に上つて居るから、國家の税源の上から言ひましても酒を保護してやらなければならぬ、それ等の必要から明治四十四年の十月までは其程度以內まではサリチル酸を清酒だけに使うことは許してあります、日本では飲食物に關する取締規則と云ふものは今申上げましただけであります　全般を通じて御話しまするど衞生上危害を生ずるものは無論の事、衞生上危害を生ずる虞れあるものを取締つてある、それで既に十分であると云ふ譯ではありませぬが、併し先づ漸くそれだけ迄に日本が進歩して參つたのであります、所が獨逸邊りは此飲食物の取締に關しましては、世界の中で最も發達して完全して居りますが、其獨逸邊りの模樣を見ますると、啻に衞生上に害を及ぼし或は衞生上に害を及ぼす虞れあるものを取締つて居るのみならず、飲食物の贋造であるとか或は模造であるとか、或は變質をして居るものを拵えたり、或

は賣たり或は店頭に陳列すると云ふことは矢張り惡いことになつて處罰せられることになつて居ります獨逸に於きましては、今から申しますれば二十四年前でありますが、千八百七十四年の五月十四日に飲食物取締規則か發布になつて居る、隨分箇條があるが、其十ケ條の主意を見ますると、人を瞞著する目的で飲食物及び嗜好品を模造したり、或は贋造した所のもの、それから第二には變質をした所のもの、模造したり贋造した所の飲食物嗜好品を、自分が其物は變質して居るか或は模造であると云ふことを知りつゝ而も其事實を現はさずに公衆に其物を販賣したり、或は瞞著して、良いやうな名稱を付して賣ると云ふやうなものは三ケ月以下の重禁錮に處せられまして千五百マルクの罰金に科せらるゝ、さう云ふ風に重い處分をすることになつて居ります、其他人の健康を害する虞れある所の物を賣つたり何かするものは無論處罰をしますが、それから飲食物竝びに嗜好品を贋造しまして誤つて人間の健康を害し不幸にして生命を危くしたるやうな場合があつたならば十年以上終身懲役と云ふやうな嚴重なる處罰をそれに科して居る。

それから日本の飲食物に關しまする法律は、衛生上害あるものを主眼として居りまするが、是がもう一歩進んで獨逸のやうな風に人を瞞著する目的で飲食物を贋造したり或は模造したり、貯藏法の惡い爲に變質をして居るやうなものを販賣する者も矢張り處罰をすると云ふことに早晩ならなければならぬ譯でございます、それで此法律の運用の範圍を廣くする爲に獨逸の法律では模造とか贋造とか、或は變質と云ふやうな言葉の意味を特に指示して居りませぬ、それは技術者竝びに行政官の各自の判斷に委して成たけ餘り細かしいことを法律の上に書き現はさずに居ります、若しさうしなければ其法律を潜つてそれに當らぬやうに隨分不正のことを考へますから、成たけ不正な事の出來ないやうに法律の範圍を廣くして居ります、是は非常に面白く、且つ肝要なる仕組

であると考へます。

それで此模造であるとか贋造でありまするとか、或は變質と云ふやうなことはナカ〳〵是は意味が六ケ敷いのでありまして、お互に判然と區別すると云ふことは困難でありますが、今飲食物の中で一例を採りまして、御話をしやうと考へます。

吾々の食物は動物性の物もありますし、又植物性の物もありますが、動物性の食物としては牛肉のやうなものは極く肝要な物の一でありまして、其肉を販賣する上に於てはどう云ふやうな不正の手段が行はれるかと云ふことの一般が御分りになりますやうなことを御話しますが、併し是は果して日本で矢張り斯う云ふやうなことがありまするかどうかと云ふことは保證が出來ませぬ、多分日本でもさう云ふことがあらうと思ふのです、不幸にして日本ではさう云ふやうな贋造模造と云ふものを取締る所の規則を發布して居りませぬから、吾々衛生技術に與つて居る者でありましても法律に禁じてありませぬから、それを取締ると云ふことはチョット困難である、從つて日本の飲食物に付て贋造であるとか模造であるとか不正の行爲があると云ふことを發見した例と云ふものは少ない、と云ふものは例令之を發見したからと云つて法律にて取締つてありませぬから此方面の檢査は餘り行はれて居りませぬ、然し此等の行爲は新聞に報告するとか或は適當の方法に依て公衆の注意を惹くと云ふことは吾々の任務でありますが、不幸にして日本に於ては飲食物に付てさう云ふやうなことの例を持つて居りませぬ、遺憾ながら外國の例に付て御話しやうと考へます、肉に付てはどう云ふやうな不正なことが行はれて居るかと申しまするど肉の質を惡くする所の物質を混ずると云ふことが第一、例へば劣等の肉を混ずるとか、或は挽肉でありまするど、挽肉の中へ少し水を入れる、或は肉の質際の品質よりは、より善良なる外觀を作ると云ふやうな物質を其中に加へる、例へば防腐劑を加へたり色素を加へると云ふやうなことは其方に屬する、防

腐劑を加へて置きまするヽ、或防腐劑に依りますと既に時日が經過しまして、實際色が變つて居るものを、再び其色素を復活さして新らしい肉であるやうな感を呈せしめることが出來ます、さう云ふやうなものを加へることは實際の品物よりは一層良い感をそれに附せると云ふやうな目的に使ふのでありますから、其精神の上から言ふと不正の仕事でございます、それから劣等肉の混和、是は重に牛の挽肉の中に馬肉を入れたりするやうなことでチヨツと分りませぬから、劣等の肉若くは馬肉を入れると云ふことは大分あります、大阪邊りでやりまするのは、鷄の肉の中へ兎の肉を入れて贋造すると云ふやうな話を聞いて居りますが、さう云ふやうなことも此種類に屬することゝ考へます、それは即ち一部分の贋造であります、詰り牛肉の中に馬肉を加へ、又鷄肉の中に兎肉を加へたりして眞正の品物のやうに詐稱して居るから一種の詐欺です。

それから肉の著色、少し時日を經過して色の惡くなつた時に、或色素を付けて赤い色を付け新らしいやうな風に見せかける、新たに屠殺しました所の動物の肉に赤い色がありまするのは筋肉に含まれて居る所の血液の色素、即ち酸化ヘモグロビンの爲に眞正の肉は赤い色を呈して居る、肉の色と云ふものは動物の種族の違ふに從つて多少違ひはありますし、同じ動物であつても其部分の違ふに從つて多少肉の色が違つて參る、動物を屠殺すると肉が直ちに強直を起し縮りましてさうして同時に酸が出て來る、此酸は御承知でもありませうが、乳酸が出來る、それで此際肉の內部にありまする所の色素は空氣に會ひまして又再び酸化ヘモグロビンと云ふものになつて、又赤い色が現はれて來る、それで肉を段々長く空氣中に置きまするヽ、段々色が變りまして、其結果切斷面を切ります場合には最初眞赤であつたものが少し褐色を帶びた赤い色になる、段々それが變化して黃味を帶びた褐色になる、それから一歩進みますと灰色がゝつた褐色になつて仕舞ふ、それが大きい肉

でありまするど空氣に觸れて居る所の部分が割合に少ないのでありますから變化し難い、挽肉は空氣に接觸して居る面が多きい爲に、其色の變化と云ふものは早く起つて參ります、所が買ふ方では成たけ色の赤いのは肉が新らしいと云ふ頭腦を持つて居るから、肉商賣の方では、惡い商賣人であると赤色を維持する爲に亞硫酸竝びに亞硫酸の鹽類を防腐劑に使ふ、さうして再び赤い色を復活せしめ、新鮮の肉のやうに見せしめる、實は良くなつて居りませぬが唯外觀の色が新鮮の肉のやうに見えると云ふだけであります、所が又新たに屠殺しました所の肉を挽肉にしまして普通の溫度でなしに氷室の中に貯藏して置くと十二時間以上は矢張り新鮮の肉のやうに眞赤な色を保つて居る、又古い肉でも亞硫酸の防腐劑を使ふと赤い色が出るのでありますから、其間の區別が付け惡いです、それで古くなつて普通の肉としては賣ることの出來ぬやうな肉を今度は挽肉にしまして、これに色の良くなる所の防腐劑を加へて賣ると云ふやうな手段がないでもありませぬ、斯樣な防腐劑の入つて居る肉を一遍ばかり食つた所が衛生上害が起ると云ふことはありませぬでありませうが、連續してさう云ふ風な肉を使つて居ると云ふと健康を害することは確かである、殊に病人でありまするとか、或は虛弱の人がさう云ふ亞硫酸の入つた所の肉を連用した爲に衛生上障碍を起したことは實例がございまして證明されて居るのであります、かゝる譯で亞硫酸と云ふものが防腐劑の取締の方から言つても其使用を禁ぜられて居るのでありまする、そこで又亞硫酸と同じやうなもので同じやうな目的を達するものがありはせんかと云ふので、世の中には隨分さう云ふことを考へて金を儲けやうと云ふ人が隨分多いのでありますから、亞硫酸が禁ぜられた後に間もなくそれに代るべき無害の品物で亞硫酸と同じやうに色の良くなるものを考付いて又市場に現はれるやうになつた、斯の如きものが出ました所が日本の法律でありまするど、之を取締ることは出來ませぬ

獨逸の取締規則に依ると之も一種の贋造でありまして、實際のものと違つてより良き外觀を附せしむる所のものであるから矢張り一種の詐欺であります、外國では人を瞞著する目的で、さう云ふものを加へて實際の品物よりはより良き外觀を附せると云ふので處罰されることになつて居る、又魚の新鮮であるか否かを見る爲めの方法に鰓を檢査することがありますが、色の變つて居る時分には怪しいと云ふやうな譯でありますから、魚の鰓を赤く染めて古い魚を新らしいやうに見せる、こんなことも一種の贋造と看做すべきものであります。

（未完）

叢談

鷄卵の話

醫學士 ふわ子君

○鷄卵は動物性榮養品の一つで、中心に位してゐる黄色なる卵黄と云ふ部分と、其周圍にある白色なる卵白と云ふ部分と、卵黄と卵白とを取り圍んで鷄卵に一定の卵形を與へ、且つ其漏れるのを防いでゐる卵殼と云ふ部分と、都合三部分から成り立つてゐる。

○此三部分は通常一定の割合を保つて居るもので

卵黄	一六
卵白	三三
卵殼	六

の比例である、若し一個の鷄卵の目方を四十乃至六

十瓦とすれば

卵黄が	一二乃至一八
卵白が	二三乃至三四
卵殻が	五乃至八

の割合である。

○鶏卵の榮養成分は主として蛋白質で、脂肪も少からず之を含んでゐるが、無論鶏卵の大小と新舊と飼育方法の如何と、鶏の食餌の良否とに關係する所も少からぬのである。

○もと〳〵生活體が其生活作用を營む際には、絶えず體內の潜勢力が體外の顯勢力に變化するので、從つて體內成分を漸次消費し盡くすのである。故に身體の一定の榮養状態を保つには、是非共分量に於ても成分に於ても、此消費を補ふに足るだけの供給を食物の榮養素から仰がねばならぬのである。而して此榮養素と云ふのは含水炭素と、脂肪と、蛋白質との三つで、此三つは榮養上の三大要素と稱へられてゐる。此うち前の二つは體內の酸化作用によりて熱を發生し力の働原となり、蛋白質は生活體の主要なる成分となるものである。故に古來蛋白質は生命の根源と稱へられ、生活體の生活作用は死せる蛋白が活ける蛋白に轉化するによりて生ずるものと云はれてゐる。蛋白質に富んだ鶏卵が吾々の榮養に效力のあるのは自明の理で、事新らしく說明するまでもない。

○種々の滋養品には『僞物』或は『人造物』と云ふものがある。鶏卵には所謂『人造鶏卵』と云ふ樣な僞造物がない。故に牛乳其他の滋養品の樣に種々の有害無害の混在物をした僞物がなく、正物其儘であるから安心して之を用ふる事が出來る。元來何等の品物にまれ、僞物を以て人を欺くと云ふのは誠に惡むべき所業であるが、然かし和製の道具を舶來に擬造して世を欺たところで、欺かれた者の物質的の損害たるに留るが、彼の身體の榮養状態を維持して、其健康をはかるが爲めに用ふる食品に向つて、僞物を擬造するが如きは、實に人道の上より假藉すべか

らざる大罪である。鶏卵は斯る大罪人の細工品でないことが、何よりも安心して信頼し得べき長所である。

○然し他の食品と等しく腐敗と云ふことは到底免れぬ所であるから、大に注意を致すべきで、世間で往往目撃する所の『腐つた卵も焼いて食へば障り無し』など〻云ふはトンデモない大誤謬で、畢竟『一卵惜みの命損』と云ふべきものである。

○もと〳〵腐敗と云ふ事は黴菌の襲來に因するもので、鑵詰めの如き空氣との交通を遮斷して黴菌の出入を一切禁遏する所には起らぬ所の現象である。然らば燐酸「カルシユーム」で堅めに固めた卵殻と云ふ鐵壁中へ、ドウして黴菌の進入するか一應合點参らずと詰問せらる〻は、最も次第の事であるが、千丈の堤もに蟻の穴があつて其破壞を來すと云ふ譬の如く、卵殻にも無數の氣孔があつて、此氣穴より腐敗を起す黴菌が大手を振つて出入するので、終に腐敗作用を逞ふするに至るのである。且つ一定の温度はすべて腐敗作用を促して、之を助長せしむるものである。

○以上の道理が明かになれば、其防腐法の如何にすべきかも自ら明白であつて

第一は、之を寒冷なる場所に貯藏する事である

第二は、卵殻の面の氣孔を閉塞する事である、其爲めには能く鶏卵を洗滌して夫れに水硝子を塗布するか、若くは石灰水中に之をつけて置くのである

○新鮮なる鶏卵は、其比重が通例一・〇七八五乃至一・〇九四であるが、日を經るに從ひて漸次輕くなり行くもので、一日に平均〇・〇〇一七乃至〇・〇〇一八位づ〻、其比重の減少して行くものである。故に其比重の減少の度合ひより、鶏卵の新しいか舊いかを判定し得るは勿論の事、尚ほ委細に研究すれば、鶏卵が生れてから何日位を經過してゐるかゞ略ぼ測定し得らる〻のである。而して其比重が減少して一・〇一五に達する時は、通例腐敗するものである。

○此比重の減少に伴ふて、多少の榮養成分の消失することも爭はれない事實で、要するに新鮮なる鷄卵に榮養價が最も多く、且つ最も安全であると云ふ次第である。

○榮養價と云へば身體を補益するだけの値を云ふので、必ずしも食物中に含まれてゐる榮養成分の多寡を指すものでない。分析上の結果其食物中に榮養素を多量に含んで居れば、それに從つて其榮養價も多いものだらうとは、世間一般の誤謬であつて、如何に山海の珍味に夥多の榮養素を食した所で、其消化力が遲鈍で、腸胃の吸收力が惡くて、其同化作用が不完全であれば、疎食にして消化力の良好なる人よりも其榮養狀態の惡しくなるものである。差し當り鷄卵は其消化力が良好であるから、其吸收作用同化作用共に甚だ良いのである、從て其吸收損失料として便中に排泄される分量が少いのである。

○鷄卵中には時としては病源を含む事があるもので例之ば彼の恐るべきヂストマと云へる寄生體の卵があつて、人體内に入り、發育して種々の害を惹き起す事がある。清潔なる器中に鷄卵を割つて見れば、卵白の部分に一點の小さい黑い斑點の附著してゐる事がある、之が例の怪物であるから、かゝる怪物を見出した時には必ず之を除去した後に食する事が必要である。

目つきのはなし

刷毛生君

人の眼は單に物を視ると云ふ生理上大切なる働きの外、其人の美貌、品位に對して又誠に大なる關係を持て居るものであります。昔から『完成』と同じ意味で用ひられる文字に『入眼』と申す事がありますが、此言葉の起原は畫家や彫刻師が神佛人物などの像を作る折に、其畫や像の表情の模樣と釣合ふ樣に一番最後に眼の瞳を描き足したと云ふ事から起つたのだ相であります。是で見ましても人の眼の樣子

がその外貌や表情に關して何位大なる働きをなすかと云ふ事が想像できます、其外にも目が物を言ふとか申します通りチラット閃く一瞥の裡にも色々の意味が汲み取れる事があり、時には言葉以上の働きをなす事があります。亦全體に誠に美しく品が良く何處に是と申す缺點のない方でも只其目附きが充分でない爲に何となく親み難いと云樣な事もあるものです、是とは反對に亦秀れて目立つと云程の方ではなくとも始終其目つきが涼しく懷かしく何となく人を引附る樣な方もあります。素と目は大さから言へば極めて小さな物でありながら夫で居て人の表情の根本となるものですから一寸缺ける處があつても其方の美貌に取つては誠に大な疵となるのであります。それでは美しい目附きとは如何云ふものか、竝に眼の美を保つためには如何云ふ注意を爲なければならぬかと云ふ事に就きざつとお話し致しませう。

＊　＊　＊　＊

目のぱつちりと大きいのは我國でも西洋でも美貌の第一の要件として尊ばるゝ處であります。世の中には目の隨分と大きな人があれば又極めて小さな人もあり、其大さは誠に樣々な樣ではありますが、元來目の玉の本當の大さと申すものは大抵一定して居て人々によりそんなに違のあるものではありませぬ。目の大きく見え小さく見えるのは、只眼瞼が是を澤山に被ひ覆つて居るか如何かと云ふ事によつてその樣に見えるのであります、目を開ひて居る時、上下の瞼のきれめを醫者の方では瞼裂と申しますが、俗に云ふ目の大小は即ち此瞼裂の大小に因る事であります、それで瞼裂、言換れば俗に云ふ目の大さは日本人は西洋人のに比べて遙に小さいのであります。西洋人では大凡横幅が三十ミリ縱幅が十二ミリから十四ミリ位でありますが、日本人では横が二十八ミリ縱が九ミリから十二ミリ位なものであります、そして此横と縱との釣合の變り樣で或は圓な目となり又は細目な目つきとなることは申す迄もありませぬ。

單に瞼の切れめの大さ許でなく、瞼の内外の切れ樣も亦我等と西洋人とは大變な相違があるのです、西洋人では目がしらが圓く入江の形をして入り込んで居ますが、私共では鼻梁の兩側から目がしらの上瞼へかけて一の皮膚の皺があつて、ために目がしらが少しく掩ひ覆され從つて目がしらが狹く鋭く角立つて見えるのであります。是はモンゴリア人種の特徵であつてモンゴリア皺と申す位であります、カウカシアン人種即ち歐米の人には此皺が稀に珍らしく、稀に是があれば見苦しい畸形としてあります。併し恁云ふ皺のできるのも素は鼻梁の高さに關係する事で、其證據には日本人でも鼻梁の眞中で皮膚を強く撮み擧げると此皺がなくなつて入江形の目がしらが顯はれ、亦何程西洋人でも小供の時まだ鼻の充分高くならぬうちには少し許り此皺の顯れるのを見受るものでありますが、夫が成長して鼻が高くなると消えて仕舞ふ。畢竟是は鼻の低い爲に弛んだ皮の餘計な部分だけが皺となつて目がしらの處に溜るのでありますから、西洋では此皺のある人は兩方の眉と眉との間で縱に楕圓形の切目を入れ、此處で其皮を少し許り縫ひ縮めるのであります。次に目じりは一般に誰でも目がしらよりは少し擧つて居るものでありますが、日本人の目じりの擧りかたは西洋人のに比べて誠に著しく且瞼の切目が極く鋭く角立つて居ります、此等の相違は内地に居てはお互に平生見慣れて居る事でありますから別に氣附きも致しませぬが西洋人許りの處では隨分著しく目に立つ相であります、そして瞼の切めが一體に鋭く角立つて特に目じりが擧つて居るのでありますから、相好が何となくきつく如何にも慓悍に見え、從つて黃禍論などを振回す先生方の中には時々此點にまで論及せらるる事もある相であります。

此外に西洋人では瞼の中程がひどく凹んで横長い溝を形造て居りますが日本人ではそれ程著しいのは見受ませぬ、只東北の方に限り時々其隨分よく發育したのを見る事がありますが、此等は何か人種上の

關係でもありますものか何れ充分研究致したならばきつと興味ある問題であらうと存じます。

次に一皮目二皮目と云ふ事に就てお話し致しませう素と二皮目と申すのは上瞼の上に睫毛の毛並と並行して一條の細い皮膚の皺のあるのを云ふのですが、此皺がもつと大きく睫毛の根本迄逹き、瞼の下端から直接に睫毛が出て皺のない一皮の樣に見えるのが一皮目であります、それですから二皮目の人が眼を見張るか又は上を見る時には睫毛の根が上へ押されて皺の陰になり一皮目の樣に見えるのであります。之とは反對に一皮目の人が目を細くするとか下を向く時には二皮目となります、小供の時には一皮目でも成長するに從ひ二皮目となるのが普通で又男子よりも婦人に多いのも一般統計の示す處であります、西洋人は大抵二皮目であつて、たまに一皮目があると目立つて見苦しいものです、日本人では前にも申しました通り、瞼の切目が誠に鋭く角立つて居て何となくきつと見えるのでありますから、此二皮目は其鋭い目附を和げて優しくする唯一の裝飾であります、それですから世間でも二皮目の方を美貌とし一皮目の方は餘り喜ばぬのでありませう。

瞼は素と目を保護するのを第壹の任務として居るものでありますから、若し之が病氣などに罹りますと目の爲には誠に恐るべき障碍を惹き起し、夫れと同時に容貌を見苦しくする事も亦容易ではありません其中重なるものを次にお話致しませう。

瞼には取分け可弱い小供などでは濕疹卽ち『くさ』の樣なものが澤山にできる事があります、是等は左して恐るべきものではありませぬが、手當を怠りますと外の樣に、餘病の原因となる事がありますから直に醫者の治療をお受になる方が安全であります、又瞼の筋肉が麻痺るか、もしくは瞼を上に引きあげる神經が麻痺て上瞼を上げる事ができず、瞼が自分の重みで段々垂れ下るのを眼瞼下垂症と申します、重症では瞼を指で撮上ねば儘にならぬ位甚だしくなる事があります、恁云ふ患者は額の筋肉の力を借て

瞼を上に吊舉げ樣と致しますから、瞼の工合の惡い方の眉を上に引き擧げ額に皺を寄せ、又頭を後に傾けて仰で物を視る僻があります、中にも筋疾性下垂症と云ふのは中年以後の婦人に多いとしてあります次に瞼に傷ができて瞼の皮膚が引き釣られ、目を瞑つて上下の瞼がぴつたりと合はず、其間に隙間のできるのを兎眼症と申します、輕症なのでは力を用ゆれば眼を全く閉ぢる事ができると致しましても睡眠中は不知不識細目に目を開た儘で居るのであります眼を久しく空氣に曝らすと云ふ事は、眼に取つては實に恐るべき事で、此兎眼症では輕い時には慢性の結膜かたーるが起り目やにが出て絶へず涙が流れると云ふ事位でありますが、重くなると遂には黑玉に迄傷ができる樣になります。元來瞼の皮膚は其下の組織に極て緩く附著て居ますから、身體中で瞼の皮位撮み易い所はありませぬ、夫で今瞼の上におできでもできてその治つた傷跡が引縮だ時には、勢い瞼の裏側の赤く充血した結膜面が外の方に向け返らねばなりませぬ、是を瞼外翻症俗にあかめと云のであります、又是とは反對にとらほーむ其他の病氣のため瞼が目の内側に捲れこんだのを瞼内翻症と申すのであります、是は外翻症程に見苦くはありませぬが、睫毛が絶へず黑玉に擦れるので遂には夫れを甚く傷けるのであります、今上にお話した病氣は手早く治療を加へさへすれば何れも充分全治の見こみのあるものでありますから、若し恁云病氣の萌しではあるまいかと氣附た時には一時も早く醫者の診察をお求めになるのがよろしい。

＊　＊　＊　＊

睫毛は生理上から見れば挨が目に入るのを防ぐ目的のものでありますが、寧ろ夫れよりも人の美貌を補ふのが睫毛の一層大なる務めである樣に思はれます何故かと言へば、或病氣の爲に睫毛が悉皆無くなつた人でもそれが爲に目にはさしたる障碍もない樣でありますが、是が無くなつた爲に其人の容貌を見苦しくする事は非常なものであります、ですから睫毛

は其數や長さから言つても誠に些々たるものではありますが、平生充分な手當を加へて是を損せぬ樣にする注意が必要であります。睫毛は一寸見ると一列に竝んで居る樣に見えますが其實數列をなして居るのであります、是は前列で誤つて止め得なかつた埃を更に後列で喰止る手筈になつて居るのであります上瞼の睫毛は下瞼のに比べて遙に大きく長く且つ其數も澤山にあります、卽ち上瞼の睫毛は百四五十本下瞼のは六七十本位なものであります、併し西洋人では上下とも其數がもつと多く且つ長さも大さもずつと大きい。

睫毛は橫顏で見た時に最もよく目立つもので、眞白の瞼から澤々した美しい細い睫毛が素直に生へ揃つて柔かに目の上に伸て居るのは、誠に穩かな品のよい何となく人を引附ける力があるものであります、之に反して病氣や何かの爲に睫毛が薄くなるか、或は亦全くなくなつた人では、夫が爲に瞼の緣が向出になり、瞼の緣にある腺と云ふ物の出口や毛穴が目立つて目元が何となくしいゝよぼしいゝよぼし、其外の顏備が何程綺麗でも誠に醜い姿となるものであります、睫毛の惡くなるのは重に瞼の緣の病氣の爲で、其中でも一番多いのは眼瞼緣炎と言つて、瞼の緣がたゞれ、其部に小さなくさができるのであります、此病氣は久しく打棄てゝ置くと遂には睫毛が悉皆脫け落ちて仕舞ひ、程經て睫毛が再發する事がありましても其發育が不完全なために毛幹が太く短かく且つ毛竝が不揃で、其上に瞼が二倍にも三倍にも厚ぼつたくなつて實に醜くなります、併し此等は早く充分な手當を加へさへすれば少しも跡を殘さず治るものでありますから、若し瞼の緣がたゞれてくさでもできた時には直樣醫者にお見せになる方がよろしい。

此他又鱗屑性眼瞼緣炎と言つて、瞼の裏にある腺の分泌の盛過ぎる爲に、絕えず瞼の緣に黃色又は灰白色の鱗屑ができて、たとひ之を除けても後から後からとできて來る病氣があります、此病氣でも一時睫毛の脫け落る事がありますが之は毛の根が侵される

のでない故後から直くにできては來ますが、久しく打棄てゝ置くと睫毛の毛竝を惡くしますから之も相當の手當を加へねばなりませぬ、毎夕百倍乃至五十倍の亞鉛花膏又は鉛糖わせりんの少許を塗るのをよいとしてあります、甚しく手數の懸る事でもありませぬから常に注意を怠らず、特に此病氣は小兒に屢〻見るものでありますから母たる方々には特に此點に於ての御注意が必要だと考へます。

睫毛が瞼から生え出て居る方向は、斜に少し前に向てるのが普通ですが、夫が睫毛亂生症と云ふ病氣では睫毛の毛竝が不揃で、其中でも逆に後に向たのが俗に逆睫毛と云つて、不絶目の玉をつゝき目に物の觸る感じが起り、無暗に羞明しく涙が流れ遂には黑目に星や曇ができて非常に人を苦しめます、又睫毛重生症と云ふのは睫毛の向きが二列になり、其中前列のは普通の睫毛と同じく前に向て居ますが、後列の毛が前に申した逆睫毛となつて居るのであります、而して何れの場合でも逆睫毛は成長が不完全で色が淡く、時には一寸見分け難い位細いのが常です長く打棄て置くと遂には非常に眼の害となりますから之も早く醫者に就て適當の手當をお受けになる方がよろしい、毛拔や何かで拔去るのは直ぐに再發しず其效能がない許でなく、拔去た跡が丁度毛を拆つた鷄の皮の樣に瞼の緣が粗れて甚く見苦くなりますから注意をしなければなりませぬ。

* * * *

良い眼はぱつちりと大きいと同時にあくまで涼しく冴々として居なければなりませぬ、眼は人の心の鏡であります、私共は何時でも涼しく冴切て居る目を見る毎に、其透明な瞳を通して身體の裡に充ちて居る淸い無邪氣な情緒を見通す事ができる樣な思ひがするのであります、目元の涼しく見ゆるには次の三つの理由があります、第一には瞼の裏から分泌る油や又は涙の爲に目の玉の表が濕つて居て何時でも澤澤して居る事、第二には黑玉や白玉が透き通て星や曇を止めぬ事、第三には黑玉が飽くまで黑く且つ大

きな事。瞼の裏を能く見ると睫の少し後ろに針の尖でつゝいた位な極小さな穴が澤山にあります、是はマイボーム氏腺と云つて油氣ある汁を分泌す管の其出口であります、此外猶睫毛の毛穴の處や其少し傍に二種程の同じく油を分泌す腺があつて、夫から沸出る汁は不絶目の玉及瞼の皮肌を潤し柔げ、尚此外に涙液も亦常に目の玉の表を潤し且つ同時に目に入つた塵埃を流し去る働きをなすものであります、此油や涙が故障なく目を適度に潤して居る時には其目が誠に美しい潤味を持つた光澤を放つのであります、私共が始終目ばたきをするのも畢竟は此涙液で目の玉を一樣に濕す目的に外ならぬのであります、元來涙と申すものは上瞼の目がしらの陰で眼の内に沸き出で、眼の表を通り越して目じりの涙點と申す處から鼻の方に拔けるのであります、そこで目ばたきの運動も一寸見れば一時に起る樣に考へられますが實は目がしらの方から始まつて段々目じりの方に及ぶので、畢竟涙が目の玉の上を通り越すのを手傳ふ樣な仕組に成つて居ります、目の惡い時に目やにが目尻に溜るのも此理由からであります、眼球の表面が乾くと云ふ事は目に取ては大なる害で、今目ばたきができぬ樣にして一日も目を外に曝らすと、黑玉にも白玉にも直に曇ができて前にお話致しました兎眼症と同じ有樣となります、之を考ても目元が涼しく見えるのには涙や其他の腺が如何なに大切な働きをなして居るかと云ふ事が分ります。

次に眼球に星や曇のない爲には白目即ち鞏膜と黑目を掩ふて居る角膜自らとが透明である許でなく、瞼の裏から掛けて眼球の前側全體を包んで居る極て薄い透明な結膜と申す被膜が亦充分透明であらねばなりませぬ、併し此結膜や鞏膜や亦角膜は、何れも目の中で最も病氣に罹り易い處で、其上病氣の種類も頗る多く、且つ一度夫が病氣に罹ると直に星や曇ができて視力を害するのであります、ですから若し此等の部分に曇でもできたら猶豫なく手當を加へる事

が肝要であります、特に御注意申し度のは目と全身の榮養との關係であります、目の病氣を食物で癒すと云事は如何にも迂遠な事の樣ではありますが、實際此間の關係の密接なる事は誠に驚く許で、中には別に眼の手當は加へずとも單に全身の榮養を良くする許で其眼病が治癒する樣な事もあります、それ故に眼を強くし眼を美しくするには是非とも亦全身の榮養を良くする事を計る必要があります。

＊　＊　＊　＊

白目に對して俗に黑玉と申すのは、透明な角膜のその又後にある虹彩と申す膜が、角膜を通して圓く黑く見透かされるので、其虹彩の眞中の孔が瞳であります、此虹彩の生理上の働きと云ふのは、虹彩が伸縮して瞳孔の大さを廣くしまた狹くして、之から這入る光線の分量を加減するのであります、誰でも明い所へ出れば瞳孔が小さく縮み、暗所へ行けば大きく擴がるのは此理由に基くのであります、それで此瞳孔以外からは光線が少しも眼の内に這入らぬ樣にする必要があり、隨て虹彩は瞳孔を殘す或は少しも光を透さぬ褐色乃至は黑色の色素で濃く染められてあるのであります、之を譬て申さば虹彩は丁度寫眞を撮る時に用ゆる黑いかばーと同樣な働きをなすものであります。

虹彩の色は一口に黑玉と申しましても、漆の樣に眞黑なのから、茶目などゝ言つて甚く茶色がゝつたのがあり又鳶色をしたのがあり、人々によつて違ひますが人種によりては其相違が更に著しいのであります、總じて我々日本人の樣な所謂有色人種の黑玉は歐羅巴や阿米利加の白色人種よりも、黑味勝でありますが、白色人種では黑玉が黑玉と申されぬ位碧味を帶たのがあります、人々により人種により斯うも相違のあるのは虹彩の中に含れて居る色素の性質による事であります、黑目の人でも茶目の人でも虹彩の裏側の方には濃い褐色の色素が澤山に含れて居ますが、表側に含れて居る方の色素の分量は人により又人種によつて大變な差があるものであります、夫

で表側の方の色素の少い人では裏側の色素が薄い虹彩の層を通して外から見透かされ青く見えるのであります、是は丁度靜脈が皮膚を隔てゝ青く見えるのと同じ理であります、亦假へ色素が少くても虹彩の膜質が厚い時には夫が鳶色に見え、之に反して表側にも猶褐色の色素を澤山に含で居る時には虹彩が最も濃く黑い樣に見えるのであります、日本人は西洋人に比べて此表側の色素が多いので從つて黑玉が彼よりは黑味勝ちに見えるのであります、亦虹彩の色は只人種によつて異る許りでなく、小供の時と成長した時とにも相違がある、小供の生れ立ては虹彩の表側の色素が少く、從つて黑玉が青味を帶で見えますが、成長するに從ひ追々其色素が增して遂には矢張黑味勝なる目となるのであります、其他亦同一人でも一方の目が如何にも黑々して居るのに、一方の目が甚く碧味を帶てゐると云ふ樣な事もありますが、斯云ふ場合には其色の薄い方の目が內障と云ふ病氣に罹て居る證據になる事もあります、之に似た樣な事實ではありますが同一眼の中でも箇所によつて虹彩の色に濃い所と薄い所とを見る事があります、俗に黑玉のほくろなどゝ申すのは之の極小さいのを言つた物であります。

以上で茶目黑目の理由をざつとお話致しましたつもりですが、それでは美貌の要件としてはどちらが價値があるかと申しますと、西洋では金髮碧眼などゝ申して寧ろ碧目の方を尊ぶ樣でありますが、一方では亦小說や何かで猶太の少女の黑々した瞳を愛の源として居る處を見ますと、凉しい黑目の方も亦喜ばれて居るには相違ありませぬ、日本では申す迄もなく濡ひを持つた黑目勝の眼が美貌の一としてありますが、所謂黑目勝と云ふのは白目の割に此黑玉の部が大きく且つ飽迄も黑々して居るのを云ふのです、黑目勝の眼は何故美しく見えるかと申しますに丁度黑天鵞絨の上に硝子板を載せたのと同じ譯で、虹彩の黑いだけ夫だけ上の角膜の光澤が目立ち物の影を凉しく寫し、其上に又隣合て居る白目との境が割

然し且つこんとらすその規則に從つて白目の方で心持ち碧味を帶て水々して見えるからであります、夫故に斯云ふ眼は常に澤々とした潤味を持ち誠に愛らしく懷しく見えるものであります。然るに是とは反對に黑目勝ではなくて白目勝の眼では人にどんな感じを與へるかと申しますと是は黑目勝とは反對に何時でも誠に厭な感じを起させます、その證據には人を睨むとか、怒るとかする時には白眼などゝも申します通り此白目を澤山にむき出す樣に致します又人相術の方で三白眼と申しますのは良からぬ目附として大變忌み嫌はるゝものですが之も亦普通の人よりも少し餘計に白目が現れる目附に外ならぬのであります、通常私共では下瞼が黑目の下の緣と丁度すれすれになつて居るのを常としますが、夫れが黑玉と下瞼とが離れて其間に少し許り白目の見えるのが此三白眼であります、併し此三白眼は西洋では日本人よりもずつと多い相であります、其外又普通の日本人では瞼のきれめは何程狹くとも上瞼が瞳に懸る事はなく、又何程大きな切目でも上瞼が黑目の緣を外れて居る事はありませぬ、それが或病氣例之ばバセドウ病と云ふのに罹りますと、瞼の切目が大きくなつて黑玉の上に白目が現れる樣になり、夫れで此病氣は其目附の恐いので一見して診斷が附くと云ふ位であります、瞼と黑玉との間に平生見慣れぬ白目が僅か一分か半分許現はれても人の相好が斯樣に甚く變るものであります、之れを考へても黑玉は溫い愛の象徵、白目は冷い怒の象徵、ですから眼は黑玉が大きくて且つ黑いだけ益々美しい目附とせなければなりませぬ。

＊　＊　＊　＊

瞳は虹彩の中央にある圓い小さな孔で、光線は皆只此孔一つから目の内に這入るのであります、獨逸の詩人は瞳を童子に譬へ、希臘の言葉では瞳と云ふ字に少女と云ふ意味の字を用て居た相であります、そう言へば私共が使つて居る此瞳と云ふのも童と云ふ文字を作りに用ひて居ます、是れは各國とも目の

中の角膜に映る小さな像から思附て始めたものでありませう、扨此瞳孔は果して黒玉の正眞中にあるかと申しますと普通では少しその上外方に片寄つて居るのが多い、それが一目ですぐに分る位一方に片寄つて居るのは之亦或病氣の徴候となる事があります瞳の形は略圓いのが普通でありますが、夫れが性來虹彩缺損症と云ふ病氣の人では虹彩の一部が缺けて居て、瞳孔が中心から周圍の方まで連續し、つまり細く長い瞳孔ができる譯であります、そして是は下の方へ向けて開ひて居るのが多い相であります、瞳の大さは光線の工合によつて伸縮する事は前にお話致した通りでありますが平生の大さは大抵一定して居て且つ兩方の眼の瞳は常に同じ大さであらねばなりませぬ、それが兩側の瞳の大さに著しく相違があるか、或は瞳が普通よりも縮み過てるか若くは伸び過てるのは何か病氣のある徴候であります、瞳の大きくなるのは腦の或病氣、瞳孔を縮める筋肉の痲痺れた時などに起るが亦茸や蚊の毒にあてられた時にも見るのであります、之に反して瞳の小さくなるのは前の場合に比べては極稀で只脊髓の或種の病氣の時に之を見るのであります、又治療の目的で用ゆるあとろぴんと云ふ藥は瞳孔を擴げえせりんは瞳孔を小さくする作用を有し、且つ其働きは藥を呑でから前者では一週間、後者でも二三日位は持續しますから其間に瞳を見て甚く大きくなつたり又小さくなつたりするのは敢て驚くには當りませぬ。

＊　＊　＊

斜視は數多い眼の疾病の中で最も著しく目附を害するものであります、元來眼球には上下左右の四つの直筋と上下の二つ斜筋がありまして、之に因て眼を自由に動す事が出來るのであります、斜視のできる理由には色々難かしい議論もありますが、一番分り易いのは以上六つの筋肉の中で、或筋肉の力が弱いか或は病氣に罹つたために力の平均が取れず眼球が或一方へ牽き附けられ、從つて其視線が妙な方向を取らねばならぬ様になるのであります、斜視に對

しては誠に巧妙な手術があつて少しも痕跡を殘さず綺麗に癒る場合も多くありますから、萬一其眼が惡く惱んで居らるゝ樣な方は進んで其手術を御試しになるのがよろしいと考へます。

子宮癌の話

東京醫科大學　神尾驥君

癌とは何か　胃癌と肺病とは死病であるとは總ての人が口にする所でありますが、何れも一度其の捕ふる所となる時は、なか〳〵逃げられないで、必ず一命を奪はるゝのでありますから、恐がられて居ります、抑も此の癌といふものは胃にばかり出來るものではありません、總て外界に通じて居る體腔には何處にも發生します、外皮は勿論の事、舌へも出事食道へも出來、腸へも出來ます、肺にも肝臓にも出來ます、殊に婦人には乳房及び子宮に屢〻發生するものであります。

其の構造は人體の皮膚或は粘膜の上層を蔽ふて居る表皮細胞といふ一種の細胞組織が過剩に發育したものでありまして、それが漸々大きくなりますと、周圍の組織を破壞して蔓延いたします、丁度暴徒が起り良民を殺逆するに似て居ります、如かのみならず身體の至る所には淋巴管といふ管がありますが、癌細胞は此の中を通り、遠方にある淋巴腺と申します る關門に達しまして、其所にまた新根據地をつくり生長します、猶ほ進んでは血管に入り血液と共に運搬せられまして、肝臟肺臟等の諸器官にも新たに根據地を作ります、恰も各地方に暴徒が蜂起して相呼應する狀を呈します。

癌は普通癌腫と申しまして、何か大きな腫れものの樣に思はれますが、實際癌は決して腫れものではありません、時には腫れあがる事もありますが、多くの場合には甚しくはれては居りませんで、唯だ少し高くなつて居る堅いぐり〳〵であります、始めの程は皮膚の下に隱れて居りますが、程なく其の部分

の皮膚はたゞれて來ます、食道や胃に出來たものも同樣に表面がたゞれて來ますので、そこからちくちくと出血いたします、此の出血し易いといふのは癌の一特徴であります、其の成長は極めて速でありまして、おしても別に痛みません。

癌の最も屢〻發生する場所は胃であります、總ての癌で死ぬ人の中その凡そ四分一は胃癌であります、胃癌に次で多いのは乳癌と子宮癌とであります、此の二種の癌は曰ふ迄もなく婦人にのみありますから、其の爲め癌は男子よりも婦人に多く凡そ二倍位の割合になつて居ります、斯樣に多い女子の癌の中で子宮癌は實に其の三分一を占めて居る割合であります。

癌の原因　は長く學者の研究の的となつて居りましたが、今もまだ明にはなりません、此頃下谷のある醫士が癌菌を發見したと申しまして、大に人の注意をひきましたが、それはとても首肯出來ません、これ迄もたび〳〵癌菌を發見し發表した人がありますが、何れも皆否定せられまして、今では癌が黴菌の爲に發生するものとは信ぜられてありません、故にウキルヒヨー大先生は近世醫學の泰斗でありますが、先生は癌は刺戟によりて發生するもの、即ち刺戟の多い所に多く發生するといふ說をたてられました、實際に就て見るに癌の好んで發生する所は刺戟の多い所であります、例へば胃癌は食道通過の際最も刺戟の多い即ち狹い所であります、舌癌は齲齒の尖で刺戟さるゝ所に出來、乳癌は乳兒が嚙む事の多い乳頭に多く出來ます。

子宮癌も其の一例でありまして、產又は交接に際して刺戟の最も多い子宮孔に發生いたします、猶は又產の回數と密接の關係を有して居りまして、子宮癌は既婚者の中で子供の最も多い人た、即ち產を幾度もした人に最も多いのであります、未婚者の子宮癌は極めて稀であります、此等の關係も產に際して來る刺戟が子宮癌を發生せしむる原因の一と見らるゝのでありませう。

癌は遺傳するものであるか　これも充分な解決を得た問題でありません、遺傳したものかどうかはわかりませんが、兎に角親子兄弟の間に見らるゝ例は少くありません、一族悉く癌で死ぬ家もあります、有名なセントヘレナの英雄ナポレオンは一族皆癌で斃れたそうであります、かゝるものを癌家族と申しますが、此れは日本にもあります、又英國皇室は癌家族で、癌の療法に多大の懸賞をかけて居られます。

癌の發生する年齢　癌は何時でも出來ますが、二十歳以下には殆どありません、二十歳から三十歳迄には稀に見られます、三十歳より四十歳迄には可なり屢〻あります、最も多いのは四十歳より六十歳迄の間で、總ての癌患者の十分八以上を占めて居ります、六十歳以上になるとまた減じて來ます、子宮癌も同樣で、四十歳から六十歳迄の間に最も多いものでありまして、殊に四十二歳より五十八歳迄即ち月經閉止期に最も多いものです、月經閉止と共に生殖作用も停止いたしまして、此れより總ての生殖器が萎縮しやうとします時に、子宮癌が最も發生し易いのであります。

癌の療法　總て癌腫は一たび發生する時は體内における非常に激烈なる暴徒でありまして、いかなる藥も之に抵抗するものはありません、如何なる名藥も其を殲滅するは勿論の事、其の成長拔扈を阻止する事が出來ません、癌に對抗し得るものは唯だ外科的手術により除去するの一途あるのみであります、所が此所に困難なる事は其の手術が機を失して少しでも晩くなる時は、手術も效を奏しませんで直ちに再發いたしまして、幾度手術しても再發復た再發遂に生命を食ひ盡すのであります、故に最も初期に於て癌を切除するといふのが癌腫療法の唯一の方法でありまして、外に治療法はないのであります。

子宮癌も同じ事で、其の最も初期に切除しなければ必ず其の食ひ殺す所となるものであります、所が子宮癌は初期に發見する事がなか〳〵困難なものでありますから、あたら婦人を犧牲にする事が多いもの

であります、而して其の罪は醫者にあらずして寧ろ患者自身にある事が多いといふ事は注意しなければなりません、卽ち初期に於ても婦人科醫の目から見る時は容易に癌であるか位はわかりますが、其の症候が少い爲めに、患者が醫者を訪ふ事が少いのが婦人の一命を損ふ原因となるのであります。

子宮癌の徵候　然らば子宮癌の徵候は如何といふに三つ重なる症狀を呈します、出血、白帶下及び疼痛であります、此等は初めからあるものでありません時としては可なり甚しくなる迄少しも徵候のない事がありまして、出血の始まる頃は最早や手術不可能の事もあります。

然し、多くは最も初めに出血が來ります、卽ち少しの痛みもなく、白帶下もありませんで、患者自身では頗る健康であると思つて居りますのに、ふと少量の子宮出血を見る事がある位であります、また別に子宮出血といふでなく、月經が平常よりも長くかかりまして、其時間の血量が少しく增加するのみの事もあります、月經終日の血量が其の初日の血量と同じ位で、また三日の月經か六日七日或は八日にも長びきます、此の月經過多の爲め一時的貧血の徵候を表はし、眩暈、動悸等を起す事があります、また或る場合には少しく過度の運動の後或は交接の後に少量の出血がある事もあります。

此等の出血は外に少しも異狀もなく、痛みもないものですから多くの患者は打ちすてゝおきます、此れが實に危險の至りでありまして、癌といふ大怪物が盛に其の潛勢力を貯へて居るのを誰も知らないのであります、時として出血が月經閉止後に來りますれば、月經が再び出たのだと思ふて少しも氣にいたしません、また月經閉止期には健康な人にもよく出血が來るものでありますから、通常は癌の爲めに來る出血もそれだろうといふ事ですてゝおきます、實に恐しい事であります、手術の成效し得るは實に此時でありまして、若し更に進んで痛みを發生する頃になりましたならば、もう萬事休すであります。

四十歳以上の人に斯様な氣遣はしき出血がありましたなら直に婦人科醫の診察を乞ふべきであります、一日、一時も等閑にしてはなりません。出血が漸々まして來るに從つて白帶下を増して來ます、それのみか白帶下は赤色を帶びまして、丁度肉汁様の色を呈して來ます。

次に必要な症状は痛みでありますが、痛みが出て來たならば最早や初期といふ事が出來ないのであります、始めは骨盤の深部に時々輕き針で刺すが如き痛みがあります、之れは漸々強くなつて來まして、刺す様な穿つ様なたえられない痛みがたえず患者を苦しめます、患者が醫者に行くのは多く此時でありまして、子宮近邊は悉く癌組織と變じ終り、悲しい哉いかなる名醫も手を下す事の出來ない状態にあります、若し强いて手術したとしても全治は覺束ないもので再發を免れないのであります。

子宮癌の經過、痛みが增すに從つて、患者は日夜病牀に呻吟し、食慾もなくなり、榮養は益々害せられ顔色蒼白、眼凹み鼻高く、全身痩せ衰へて髑髏の如く、精神は死に至る迄異状がありませんから、見るさへも痛々しき限りであります、患者は晝といはず夜といはず痛みを訴へ、痛みを止め得るものの外は何事も其の注意を惹く事が出來ません、最後に近づきましては痙攣などを起して遂になぶり殺しにされてしまいます、痛みが始まつてから死に至る迄は凡そ一年位かゝりますが、其間の苦痛は實に見るにも忍びないのであります。

以上の如く其の死の悲惨なる事甚しいのでありますが、其の療法は外科的に切除するより外はないのでありますから、醫者も非醫者も共に早く此を發見する事に勉めなければなりません、然るに前申しました通り患者が醫者を訪ふ頃は多く既に時機を失し萬事終れる後であります、少し早いと思はるゝ人でも再發せざる事を保證し得るのは誠に稀れであります、殊に中流以下の婦人にありましては、少し位の出血は等閑に附し去るのが通常であります、此れが

抑も一生の過ちであります、若し總ての婦人が醫者の心得をもつて居りましたなら、そんな危險も少いのでせうが、誠に悲しい至極であります。

故に四十歳頃より六十歳位の間にて、少しでも疑はしい出血がありましたり、または一度閉止した月經が復た出たりしたならば、其奧にはやがて生命を食はざれば止まない大怪物がひそんで居る事を忘れてはなりません。

假令出血は少量であつても、由々しき大事でありますから、一時も猶豫せずに醫者の診察を乞はねばなりません、そして一刻も早く醫師の忠告に從つて其を切除せねばなりません。

數年前ですが獨逸のある婦人科學會にて、子宮癌患者の不幸を救はんが爲めに、次の樣な注意を新聞紙上にて公衆に配布した事があります。

一、子宮癌は痛みもなく、又他の症狀もなく始まります。

二、子宮癌の最初の徴候は子宮出血及び白帶下でありますが、其の出血は或は月經過剩として、或は月經時以外の不時の出血として、或は月經閉止期出血として、又たは月經閉止後の月經復歸として來ります。

三、子宮癌は唯だ手術によりてのみ治療し得るものでありまして、しかも其の手術は最も初期に於てのみ行はるゝものであります、子宮癌は手術を施さずには決して治りません。

四、子宮癌はすてゝおけば必ず悲慘なる死を遂ぐるものであります。

五、子宮癌患者が救はるゝには、子宮出血及び白帶下が（殊に四十歳以上の婦人にありて）ありましたならば、猶豫なく直ちに醫師の診察を乞ひ、醫士が手術を命じましたならば何の顧慮する所なく其の忠告に從はねばなりません、一時間毎に危險を增すものであります。

六、故に命の惜しい人は、少しでも疑はしい現象がありましたなら、何も曰はずに醫者の所へ御

出でなさい、一時間たりとも晩れてはなりません、此の惡魔を退治するものは唯だ醫者の刀のみであります。

醫家の美顔法（續き）

H、G 君

第三　眼瞼の醜形

眼瞼の形にも種々の醜いものが有ります。生來の不具もあれば、病氣の爲に起つたものも有ります。種類が多いから之れは極めて簡單に其形を、如何すれば治るかと云ふ事だけを述べませう。

其一、眼瞼缺損症　眼瞼の一部分が生れ附き缺けて居るので有ります、之れは上眼瞼に多いので、三角形の缺損を成して居ります。之れは簡單なもので有るから、只缺けて居る處を兩方から、眼瞼を引張り合して縫合して置けばよいので有ります。

其二、內眥贅皮　眥と云ふものは、端の方は細く尖つて居るもので有りますが、內側と外側とは違ふ、內眥の方は一般に外眥程には細く成つて居りません。併し日本人と西洋人とを比べて見ると、此形は大變違ふので、西洋人のは內眥の方が日本人のよりも遙に細く尖つて居ります。之れは何故かと云ひますと、吾々は西洋人よりは一般に鼻が低い、餘程高いと思つても西洋人よりは低い、鼻眼鏡の都合よく懸る人は少ない位で有ります。鼻梁が高ければ皮膚を十分に引締めて居るから、自然內眥の方が細く成つて見えますが、鼻梁の低い人では、鼻の上の方から兩眼の間の皮膚が餘つて來るから、自然內眥の上に蔽ひ掛かつて、何だか內眥の形が間が拔けて見えるので有ります。併し之れは多少は日本人には誰もある事で有るから差支はありませんが、往々之れが餘程度の強いのが有つて、之れはあまり醜いので遂に先天異常として取扱はねば成らぬ事となるので有ります。偖て此療法はと申ますに、小兒の時には急いで治療をする必要は有りません、西洋人です

ら小兒の時には多少此傾向が有るので成長するに從つて、鼻梁が高く成つて、自然と形がよく成るので有りますから、日本人も、小兒の間は其儘にして置いて、成人して後に尚鼻が十分高く成らず、此醜形が續いて居る樣ならば始めて治療をして宜しい。其の治療法と云つても此樣なものは藥劑では何とも仕方が有りませぬから、矢張一寸した手術、卽ち餘つて居る皮膚を取り去るので有ります。之れに二つの方法が有りまして、一つは、鼻梁の上で皮膚を縱に楕圓形に切り取つて置いて、其傷を上下から橫に引張り附けて縫合するので有ります。斯くすれば、兎に角此邊の皮膚が少く成つたと共に、眼の間の方の皮膚が下の方へ引き附けられますから、此爲に、內眥の上には贅皮は殘らぬ事と成ります。今一つの方法は上の如く間接に行るのでは無く、直接に兩眼にて、各內眥の上に蔽ひ掛つて居る贅皮を切除して仕舞ので有ります。

其三、瞼裂縮小症　之れは病氣の爲めに外眥の方で眼瞼が上と下とが附著して、瞼裂が小く成るので有ります。之れは如何して起るかと云ふに、上下の眼瞼の間には內眥にも外眥にも强い靱帶と云ふもので結び附けて居るので有りますが、外眥の方の靱帶が內側の方へ延びて來て、其爲に眼の開き方が少なく成るので有ります。之れは結膜（眼瞼の裏を包んで居る薄い膜）に長い間病氣の有つた結果として來るので有ります。次ぎに又、外眥の處に裂けたり、爛れたりして居た爲に、皮膚が上と下とが癒著して仕舞ふ事も有ります。老人等で常に淚の流れ出て居る人に、眼が赤くたゞれて、外眥の方が十分開かなく成つて居るのはよく見る處で有ります。時には又先天的に外眥の部が癒著して生れて來る者も有ります。

療法としては眼瞼成形術と云ふのが行なはれます。つまり此餘分な皮膚の癒著して居るのを切離せばよいので有りますが、さう容易な事では無いので、之れに使用する剪には、眼を傷けてはなりませぬから

尖をまくる鈍にしたる剪を用ゐまして、此剪の一葉を外眥の下にやり、他葉を外面へ當てゝ置いて、一刀の下に外眥を横に切るので有ります。と云へば簡單では有りますが、切り放しにして置いては又其處が癒著して仕舞ふので何にも成らないから、傷の出來た縁の處で、結膜の縁と皮膚の縁とをよく縫ひ付けて置かねばなりません。小さな處では有るし、出血がひどかつたり、病氣の爲に結膜が萎縮して居て縫ひ難くかつたり、隨分困難の伴ふ事もあります。

其四、眼瞼内翻症　之れは眼瞼が内側の方に翻入して居るので有ります。普通の人は皆眼瞼は上の皮下に、下のは上に向いて、輕く眼球の上を蔽ふて居るので有りますのに、此患者のは眼瞼の縁が強て内方に翻轉して居るから、外から見ると、瞼縁は見えぬ程に成つて居る、皮膚を牽引して見れば、漸く瞼縁が現はれ來ると云ふ樣な譯で、翻轉して居る瞼縁では強く眼球を壓して居るし、且つ瞼縁には睫毛が竝んで生じて居るので有るから、常に此睫毛の刺戟が有る爲めに、結膜炎を起したり、角膜炎を起したり害を爲す事は多いので有ります。さなくとも第一外觀上甚だ宜しく有りません。いくら大きく目を開かすと思つても、眼瞼は普通の樣には開かないので有りますから、他から見ると、何だか何時も目が覺めて居ない樣で、誠に見難いもので有ります。之を來す原因には種々有りまして、何かの原因から瞼縁の近傍にある筋肉が強く收縮する爲めに起るものもある、即ち老人に成つて皮膚が弛緩して抵抗力を失ひ、眼球は陷沒すると云ふ樣な譯で眼瞼に痙攣を起したり、繃帶をして居た事が原因に成つて筋の牽縮を來したりするので有ります。其他瘢痕性内翻症と云つて、眼瞼の裏にある結膜に瘢痕が出來た爲めに翻轉する事もあります。之れは「トラホーム」や實扶的里や火傷や腐蝕と云ふ樣な事が原因に成るので有ります。

療法としては種々ありますが、簡單なもので面白いのは、絆創膏を用ゐて、内翻して居る下眼瞼の處か

ら頰の方にかけて貼つて置くので有ります。絆創膏は皮膚によく附著するもので有りますから、之れで強く引張り附けて置けば（普通の形に成る程に眼瞼を引きつけて）自然と恢復するので有ります。併し輕度の時は之れで宜しいが、うまく行かぬ時には手術療法によらねば成りません、手術と云つても實に容易なもので有りまして、間違の起る樣な事は無く局所麻酔でもしてやれば、患者は何の苦も無く、數分間に此醜い形が無く成るので有ります。つまり如何にかして、翻轉して居る眼瞼を外の方に引きつければよいので有りますから、言ひ換へて見れば、其方の眼瞼の外の皮膚を常よりも少くすれば、それだけ外へ引きつけられる事と成る、此目的で、其眼瞼の外の方に、適度に半月形に皮膚を切り取つて、其傷痕を縫合せば、其爲に眼瞼は引かれるから、內翻は恢復する事と成るので有ります。之れで多分治りますけれど今一層確實にと思ふならば、創口を縫合する時に、絲を其下の軟骨の下緣か又は其近傍の結締組織に通じて結び付ける方がよいので有ります。何故かと云ふに、內翻して居るのは軟骨と共にで有りますから、其力は隨分强い、之を皮膚だけの力で引留めるのでは、時には效力の無い事が有るので有ります。此他にも種々の法が有りますけれど、大抵似たもので有ります。

其五、眼瞼外翻症　之れは前のと反對に、眼瞼が外の方に翻轉するので有ります。輕症のものでは。只瞼緣が眼球から隔離する位に過ぎぬものも有りますが、之れがひどく成りますと、外の方へ翻轉して、其眼瞼の裏に附いて居る結膜は著しく肥厚し、其結膜は甚だしき充血をして居るから、見るも恐ろしい樣に赤くふくれ、淚は頻りに流出して留まらず、且つ眼瞼が翻轉した爲めに、角膜は其被覆を失ふ事と成るから刺戟も多くして、潰瘍を蒙る樣な事も多いので有ります。此外翻を來す原因は、內翻の時と略ぼ似たもので有りまして、痙攣性のものや、炎症性のものや、老人性のものや、麻痺性のものや、瘢痕

性のものや種々有るので有ります。療法としては、各其原因を去る事にて治する事も往往有りますが、ひどく成つたものでは矢張手術によらねば成りません。手術は如何云ふ風にするかと云ふに、其詳細の方法は一々申しませんが、其主意としては、大別して三法で有ります。一には外の方に翻轉して居る結膜の面を內方に引きつけて外翻を矯正する方法、二には外翻した眼緣は弛緩して長く成つて居るから、之を縮小する方法、第三は前に內翻の處で申した手術の反對で、其眼瞼の外の皮膚が小さ過ぎるが爲に外翻して居るので有りますから、手術に由つて之を伸ばす樣にするので有ります。

眼瞼の醜形としては此外、睫毛亂生症と云つて睫毛が後の方へ曲つて生じて角膜を刺戟するものや、睫毛重生症と云つて睫毛が二列に生ずるものや、上眼瞼下垂症と云つて、上の眼瞼が下垂して仕舞つて眼は其爲に閉ぢられ、患者が開かうと思つても開く事の出來ぬものや種々有りますが、あまりくだ〳〵しく成りますから此位にして置きませう。之れ等は皆手術を以て恢復する事が出來るので有ります。

活ける家（承前）

醫學士　渡邊房吉君

（十八）活ける家の入口と其門衛

家には入口がある、入口には門衛がある、門衛は主人の命令を奉じて門に出入する人々に就き一々之を誰何して、苟も怪しい者と見て取れば直ちに追つ返へして入れぬやうにする。故に家の安全は主人の統御の行屆くか否かによるが、門衛が其職に忠實なるか否かにも關係する。入口の堅牢に造らるべきは云ふ迄も無いが、門衛の職責も亦た神聖なものではないか

活ける家の入口は五個所にある

或客は甲の入口より、或者は乙の入口より入る。來賓は表門より、八百屋は勝手口よりと云ふ具合であ

る。

第一の入口は皮膚

であつて、寒さ暑さ、痛さ痒さ、硬さ軟かさ、堅さ滑かさ等の諸感覺はすべて皮膚から入り込むのである。卽ち皮膚に行き渡つてゐる知覺神經が、是等の諸感覺を感受して一々之を腦の方へ傳達する此入口の門衞が觸覺と云ふもので、若し此觸覺がなければ皮膚と云ふ入口には憚りも無く外敵が侵入して、思ふが儘に活ける家を蹂躪する。例之ば腦や神經の病氣では、知覺脫失症と云つて觸覺の全く無くなる事がある、痛いか痒いか、暑いか冷いか、サッパリ分からなくなる事がある。此の如くに觸覺が無くなれば切られても痛いと感じないから、尖端銳角などに衝き當つて身體が傷だらけになる。火に接觸ても暑いのが分からないから手足が燒け爛れる樣になる。全身破滅の原因は軈て斯樣なところから生ずる。刃物を見れば危險として之を避け、火を見れば暑いとして之に觸れぬやうにするのも皆觸覺の警戒があるからである。久しく跪坐してゐれば足がしびれる、しびれるのは神經の壓されて觸覺の鈍ぶるからである、之を我慢するのは惡い、すぐに坐位をかへてしびれを治す樣にする。

第二の入口は眼球

であつて、宇宙間のありとあらゆる諸現象諸物體は光線の媒介によつて皆此入口から入り、視神經から感受されて腦に迄達する。此入口の門衞を視覺と云ひ、全身を保護するの作用をなす。不幸にして明を失つた人は、家に居つても道を步ゆんでも、常に危險から圍まれてゐる、生涯を暗黑の中に生活してゐる樣なものだ『盲目者が盲目者を手引きせば二人共に溝に陷らん』と云ふ諺もある、幸に盲目者には觸覺が銳敏であるから手探りで妨害物危險物等を避け得る事が出來るのである。言ひ換ゆれば盲目者は皮膚で物を見るのである。

第三の入口は耳

である、耳の門衞を聽覺と云ふ。皮膚で觸れる事も

出來ず眼で見る事も出來ぬ所から來る危險は、聽覺によつて警戒されて。遠方から若しくは後方から近づいてくる危險は、聽覺から直ぐに腦に通知される。聾の一人旅は盲目者の一人旅よりは安全ではあるがサリとて大に氣遣はしい。盲目と聾耳と何方がよいかは解釋の仕やふに由つて異るが、音響と云ふものの無い世界に棲息するのも亦一つの苦痛である。人の口を動かすのを見ても何の爲めに笑ふかが分からず、互に興じ語るのを聞ても何を語り合ふかが分からないとすれば、世界の萬象は單に身體の所作ばかりで、此活動的の社會は聲も無く音も無き一のパノラマに過ぎぬこと〻なる。近頃私に治を求めに來た一人の患者は云ふた『耳の遠いのはよいが、遠い爲めに世の進歩に遲れるのが口惜しい』と、尤もの次第な嘆聲である。誠に聽耳は智識の輸入に缺くべからざる要件で、一つ事柄を幾度びも聞き返すやうでは勢ひ他人と對抗して進歩して行くとが出來ぬ。

第四の入口は口腔である、「口は禍の門」とは口から外へ出る宜しからぬ言葉が他人を傷つける事の多いのを警めた諺であるが、口の中へ入り込むものにも隨分身體を害する者が少くない。腐敗したものが入れば全身に病を起す、硬い不消化なものが入れば胃腸を損ふ。舌にある味覺は食物の良いか惡いか、甘いか苦いかを擇り分け、身體のためにならぬ食物はすべて之を受け入れぬ樣にする。例之ば食物中に一粒の小さい砂が混つて居つても直ちに之を排出する。然し此味覺と云ふ門衛は極めて欺かれ易いから必ずしも信用が出來ぬ甘い物は胃に惡いと知りながら嘗めたがる、酒類は氣を狂はせると知りながら切りに之を飲みたがる。まことに油斷のならぬ門衛であるから、常に管理の目を離してはならぬ。

第五の入口は鼻である、鼻に入り込んで來る者はすべて香氣を放つもので、嗅神經から感受される。鼻の門衛を嗅覺と云ひ、鼻腔の粘膜に座を占めて香氣の善惡を判斷す

る。馥郁たる薫香は招かれ、鼻をつく惡臭は退けられる。食物の美味も芳香のために増進される。味覺の殊に重要なのは空氣の善惡を判知する事である、閉ぢ込めた一室の空氣は惡臭を放つ、高山平原の空氣は芳香を有する。味覺が好まぬ空氣は之を吸ふな味覺に氣に入らぬ食物は之を食ふな。味覺は練習によつて鋭くもなるが、又習れこになつて遲鈍になる。長く一室にたれ込めて居れば部屋の空氣の惡くなつたのが分からぬ、故に味覺の感ずる所は毎回必ず正確でない。野蠻人の味覺は開明人のよりは鋭い、フンボルト氏の話しによれば或る南亞米利加の土人は暗中にあつて能く人を嗅ぎ分ける、黑奴か白人種かは香でわかるそうである。料理人なども鋭敏な味覺を以てゐなければ食物の料理上に不便である。

以上五つの入口にある感覺を總稱して

五官

と云ふ、五官は人類の特有物ではなく動物にもある、ある計りではなく人類よりは寧ろ鋭敏である。鷲の視力は人よりも鋭い、兎の聽力は人の聽き得ぬ微音をも聽く、然しながら動物は人の如くに之を利用する事が出來ぬ。鳶は高く中空に舞つても野路を横ぎる野鼠を認める、人は鳶ほどの視力は無いが望遠鏡を發明して能く二十五萬哩を隔つる月世界を觀測する事が出來る。犬の嗅覺は人類の企て及ばぬ所であるが、犬には人の樣な心が無い、薔薇の香りも若草の匂ひも之を喜ぶことを知らぬ。兎の耳如何に聰くも美はしき音樂の調を何ときこう。即ち人の五官と云ふは外界から内界へ通ずる門戸で、外界に起る萬般の事項は必ず之より入るのである。人から視覺をもぎ取れば色の智識は其人にない、人から聽覺を取り除ければ音響の智識は其人に無い、人に觸覺が缺けて居れば痛さ痒さの觀念も精粗硬軟の智識も無い、五官共に缺けて居れば人には何等の智識もない。

智識は感覺より生ず

ると云ふは能くも云ひ得た言葉である、吾人の知れる凡ての物は恐く五官から學んだのである。聽くよりも

多く見る、嗅ぐよりも多く聞く、味ふよりも、多く觸れる。

身體の保持と智識の涵養とに向つてカバカリ五官が必要であれば、之を大切に保護すべきは言はずして明かである。

皮膚は毎日清潔にし苟も長く之を汚してはならぬ、衣服は輕暖にし觸覺の作用を妨げぬやうにする。口は意地汚くせず、酒に醉はされぬやう、甘い物に欺されぬやうにする。鼻は之を清潔にし空氣の通路を自在にし、兼ねて嗅覺の作用を全うさせる。眼や耳の養生に就ては既に充分述べて置いたから、次に舌と鼻とに就て尚少しく述べて見やう。

家庭衛生

看護の事

醫學士　河野衛君述

一家に病人の出來た時分に、醫者の診察を受けて、藥を飮むといふ事は、誰でも能く知つて居る事でありますけれ共、病人の世話をする事即ち看病といふ事が如何に大切な事柄であるかといふ事は、餘り善く知れ渡つて居らぬやうであります、一に看病二に藥で、病を治すには、看病といふ事が第一に肝要であります、如何に立派な藥を飮むでも、看病の仕方が間違つて居ては、一向に藥の利き目はありませぬ看病の主旨は、病人に向つて、醫者の命じた通りを能く守り、病人は安靜と慰安とを與へ、各種の障碍を除く事を勉めるのであります、醫師の命を嚴守す

るといふのが其主旨なのであります。

現今各所で看護法を教授し、病家の依賴に應ずる看病者を造る事を行つて居ります、是れは職業として看病の事に從ふのであります、今後益々此事業が完全に赴き、實際役に立つ看病者を澤山に養成する事は、吾々の希望する所であります。

職業として看病の事に從ふ者の外に、一般の人々も病者看護の事を少しでも心得て置くといふ事は、甚だ大切でありまして、殊に醫者の所から距つて居る所に居る人―田舍抔では、醫師の來る迄に、病者に對して適當な所置―素人療治ではありませぬ―を取るといふ事は、甚だ重要であります、今日素人療法と言ふ事が行はれて、何々の病には、何といふ藥を飲めといふ事を素人に敎える事が流行つて來ましたけれ共、是れは甚だ危險を伴ふ事であります、藥の事は、甚だむづかしい事で醫師でない人に、話しをしても、中々分り難い事柄でありましよう、ヨシ又分つたとしても、病を治療するといふ事は、ソンナ平易な事柄ではありませぬ、素人が藥を扱ふと、トンダ間違を來す事があります、それ故に、私は、素人に向つて、病の治療法―藥の事抔を話すのは、贊成でありませぬ、私は、常に本誌の上で、衛生上の御話しを致して居りますが、藥の事抔は、必用が無いと考へて、決して之れを申し上げませぬ、只だ病に對する正當な注意を拂ふやうにすれば充分であると信じて居るのであります、それで今日は病人の世話をする卽ち看病の事を少しばかり申し述べて見ようと思ふのであります。

さて上に申しましたやうに、看病の主旨は、醫師の命を嚴守するのでありますから、自分の考へで、醫師の命令の無いのに、色々の變つた事を行つたり抔してはなりませぬ、變更の必用は、醫師が認めて、之を行つて行くのであります。

醫師の診察を受けた以上は、如何なる事があつても素人療法を行つてはなりませぬ、利益の無いのみならず、時としては、非常な害を蒙ることがありま

す。

看病者は、醫者と病人との間に立つて事を行ふものでありますから、むづかしい役目であります、醫者の命を嚴守すると同時に、病者に滿足と慰安とを與へる事を勉めなくてはなりませぬ、それ故に、非常なる忍耐と精力とが入用であります、看病をする時には、病人の氣に入らぬ事をやらなければならぬ事もありまするし、又色々な訴へがあつても、病人の希望通りに出來ない事もあります、それに、病者に慰安と滿足とを與へなければならぬのでありますから、大なる忍耐が無くてはなりませぬ、病人から出る色々な希望に應ずると、病の經過に不利益であるから、一々之れに從ふ事は固より出來ませぬ、病人は、自己の爲になる事を能く知つて居るものではありませぬ、病の時には、隨分無理な注文が出るものであります。

病人の性質に注意し、之れに應ずる事を勉めなくてはなりませぬ、何人にも千篇一律で、同じ事を行ふ事も出來ませぬ、是れが甚だ大切な事であります、一片の處方、藥、個々の規則ばかりで、病が治るのでは無くして、病を治すには、全身の働き具合をウマク調節整頓さして行く事を計らなくてはなりませぬ、是れには、其人の個性に顧み、其人に適應するやうに考へて掛らなくてはなりませぬ。

そこで、病者には、出來得る限り愉快な感じを持たせるやうにするのであります、是れは、病人と、疾病の經過の上に、甚だ大なる影響のあるものであります、又看病者は、家族の人々に對して、甚だ困難な位置に立つものであります、それは、病人が單に可愛相であるといふ所から、看病人の爲す事が氣に入らぬ事が屢々あります、殊に飲食物の事に至つては、病人家族と醫師とは、時々反對に走る事があります、病人には、何でも食はさなければ、力が衰へるといふので、色々なものを與へたがるものであります、併し食餌の攝生といふ事は、健康の時にも、大切な事でありますから、況して病人に向つては、

極めて重要な事であります、此時には、斷然病人や家族の人々の希望に從ふ事は出來ませぬ。

い、病室―病人を寢かすには、出來得る限り靜かな室を撰むのであります、通り拔けをする室を用ひてはいけませぬ、病人の臥牀は、頭の方を壁に向けて接近させるやうに置き、身體の左右兩側と、足の方と此三つの側から、自由に病人に近接する事の出來るやうにするのであります、それから、戸、障子や窓から、不快な風の吹き込まぬやうにし、戸、障子の開閉の時分に、音のせぬやうにするのが必用であります、平素なら、少々の音がしても左程不快でもありませぬけれ共、病氣の時には、少しの音も耳に障りますから、油を塗り抔して、可成音を出さぬやうに注意しなければなりませぬ。

（以下次號）



質疑

問● 貴會益々御隆盛賀し奉り候陳れば私父先日より腎臟病に惱み腎臟は移動致し候間繃帶をいたし醫士にもかゝり居り候へども左程宜しくも御座なく候に就ては何卒右療法御教示の程願上げ候
又々恐入り候へども私事年中肩はりにて困り候時々ひねりを致すと胸部に痛みを感じ醫士にかゝり居りますが年中の事故自分にて出來る治療法並に攝生法を何卒御教示下され度偏に願ひ上げ候

山形の一會員

答● 腎臟病には數多の種類がありまして其の何れに屬するかは單に通信のみでは判明し難いですが腎臟が移動すると云へば先づ遊走腎と考へられます是には先天性、後天性とありまして吾人が屢々

見るのは後天性のもので殊に羸瘦てる人に多く又左方の腎よりも右方の腎に多いのですが本病は煩苦なる疾患であつて多くは治癒と云ふ事は困難でありますが併しながら嵌頓とか或は惡性變性等に陷らなければ直接生命に危險を招くと云ふ事は尠ないのであります、然して其療法としては一も適當のものがないので醫師は腎臟切除術とか或は縫合術等の外科的療法其他種々なる療法を行ひますが孰れも奏效しない、であるから素人療法としましても是と云ふて恰適の方法もありませんが夙に本病患者は可及的身體の勞働を避け毎日便通の整順を計り被服の緊扼を廢し亦腹帶を臍下に纏ひ腎臟を上方に壓迫して之を自然の位置に存留せしむる樣努めなければなりませぬ、其他腎臟を上方に壓排せんが爲め「ペロッテ」(提睾帶の如きもの)を用ひ亦按摩法に由りて往々好果を見たる例もあります何れにしても嚴重なる醫療を受くる事が最も肝腎です。

又肩の張るのは各人の體質、職業等が最も其れを誘起するに關係をなして居ます例之常に坐業を執りて細字を書くもの或は日本式の裁縫家等に比較的多い樣ですから先づ第一に職業を轉換する事が必要と思ふ之れに次ぐは適當の運動、便通の整順を計り按摩法を行ふ事です而して堪へ難い時は適當の醫師に依賴して近時流行の注射をするが最も良き療法と思はれます。

○隆鼻術に就て問者に告ぐ　先頃本會(例會)に於て岡田博士が講話せられし整鼻術の速記を其內掲載致すべければ今暫く待たれよ。



○コッホ氏夫妻の出發

去る六月十二日來邦以來、東京を初めとし、續いて

各地到る處に於て未曾有の大歡迎を受け、一大偉人なり今救世主なりと崇められたるローベルト、コッホ氏及び夫人は尚ほ來月下旬迄で滯在し名所古蹟を巡覽する豫定なりしも來月中旬米國に於て開かるゝ萬國結核病豫防會議に獨逸國を代表して出席すべき命を受けしより急に歸期を早め關西旅行も匆々に去月二十日横濱に著し旅裝を整へ愈よ去る二十四日午後三時を以て同港解纜のインプレス、オフ、インヂヤ號に乘り込み名殘りを惜しみつゝバンクーバーに向つて出發せられたり、當日コ氏夫妻は出帆に先ちて、來邦以來特に世話を受けたる、北里、長與、志賀、宮島の諸博士及び鹽原三共商會主、來遊中のフレンケル氏等を「オリエンタル ホテル」に招きて晝餐會を催ふしたり、先づ北里博士は簡單に送別の辭を述ぶるや、コ氏は流石に名殘惜さに堪へざりけむ、何時もの元氣に似もやらず悄然身を起して悲痛の調子にて語るらく『余等夫婦は、單に一旅客として日本の地に來りしものに過ぎざるに、意想外なる歡待厚遇を受け、到る處身に餘るの光榮を博したるは茲に謝するの辭なき迄に感佩措く處を知らざるなり、最初此旅行を試みんとせし時英米の人に就き學び得たる日本と自ら親しく接せし日本とは雲泥萬里到底日を同ふして語るべからず、此際余等の希望は此溫き日本の地に尚數月の滯留を欲すと雖も偶ゝ本國政府の都合により突然多くの懷を殘して去らざるを得ざるに至りたり、回想せば上陸以來受けたる同情と日夕感得せし至情は帝王の力を以てすら恐らく搔き消す事能はざるべし、若し夫れ日本に何等かの萬國會議ありて派遣を命ぜらるゝが如き機あらば余は悅んで再びこの明媚なる山水に接せむことを望む』云々と語り言半に感涙浮き出で其座に堪へられざるものの如かりしと。

かくて午後二時は迫り、折柄の秋雨に夫妻及び北里博士を乘せたる馬車は「ホテル」を出るや横濱醫師會同藥劑師會、衞生會の寄贈に係る煙花は天を靡かし夫妻の退去を盛んにせるは來朝の時に毫も異ならず

埠頭には東京より態々赴かれたる石黒男、森軍醫總監以下數十人及び横濱にて重なる醫家其他數十人待受け見送られ、六角兵藤兩氏の令嬢は花輪を送りしに夫人は令嬢の頭を撫で「サヨナラ」と笑む、やがて一行を乘せたる小蒸滊船の岸を離るゝや、風雨の中に萬歳の聲起れり。

午後二時十五分インチヤ號の甲板はコッホ氏を送る人々と、此船にて渡米の原敬氏を送らるゝ人々と入り交りて雜沓の中にコッホ氏は北里博士の紹介にて原氏と握手され、北里、長與、其他の人々に圍繞られ『日本へ來て二月やそこいらで恁んなにいろ〳〵人の見られない様な處を見せて貰ひ極めて愉快な滯在をした者は外にないであらう是はすべて諸君の御厚意に依るものである』と繰返し又夫人は『日本に於ける二箇月間は一生忘るゝことの出來ない旅行でした、然し餘り歩いたので斯んなに黑くなつて終ひました』など話し居らるゝ内追々時間は迫り來りて何れも盡きぬ名殘を惜みつゝ最後の握手をなして小蒸滊に歸り船は豫定の如く午後三時出帆此偉人を拉し去りたり、尚コ氏出發の前々日水戸の醫師會は餞別として博士に古刀一振と造花を、後藤遞相は博士に珍らしき畫幅二軸を夫人に茶の湯の書物を、長與博士は寄木の盆栽を、北里博士は名古屋其他の古城の壁畫の模寫を寄贈されたりしとぞ。

○府下の畜猫數

彼の飼猫問題に關する第一著手として警視廳にて府下最近の畜猫數を調査せしに市部五十二萬二千五百五十八戶中、飼養せるは二萬一千三百〇五戶、その頭數二萬四千六百三十七頭、即ち百戶に對し四・六%の比例を示し、郡部に至りては十四萬四千百三十六戶中三萬六千四百六十一戶にして四萬一千百四十七頭を算し其比例二五・二%に居り、市郡を合すれば八六・六%の百分率なりといふ。

○月經分娩早見一覽表

產婦分娩時期の算定に就ては古來種々の方法もあるが孰れも正確のものでない、今比較的正確なる法と

して或る專門家より示めされたる其法は卽ち最終の月經日より三ヶ月を差引き之れに七日を加ふれば左表の如く何月何日が最終の來潮なれば何月何日が分娩日に相當すると云ふ譯になる依て爰に掲げて諸姉の參考に供せんとすされば之れが當否を試みらるゝも亦一興なるべし

終末月經の來潮	分娩日
一月一日	十月八日
五日	十二日
十日	十七日
十五日	二十二日
二十日	二十七日
二十五日	十一月一日
二月一日	八日
五日	十二日
十日	十七日
十五日	二十二日
二十日	二十七日
二十五日	十二月二日
三月一日	六日
五日	十日
十日	十五日
十五日	二十日
二十日	二十五日
二十五日	三十日

終末月經の來潮	分娩日
四月一日	一月六日
五日	十日
十日	十五日
十五日	二十日
二十日	二十五日
二十五日	三十日
五月一日	二月五日
五日	九日
十日	十四日
十五日	十九日
二十日	二十四日
二十五日	三月一日
六月一日	八日
五日	十二日
十日	十七日
十五日	二十二日
二十日	二十七日
二十五日	四月一日

終末月經の來潮	分娩日
七月一日	四月八日
五日	十二日
十日	十六日
十五日	二十一日
二十日	二十六日
二十五日	五月一日
八月一日	八日
五日	十二日
十日	十七日
十五日	二十二日
二十日	二十七日
二十五日	六月一日
九月一日	八日
五日	十二日
十日	十七日
十五日	二十二日
二十日	二十七日
二十五日	七月二日

終末月經の來潮	分娩日
十月一日	七月八日
五日	十二日
十日	十七日
十五日	二十二日
二十日	二十七日
二十五日	八月一日
十一月一日	八日
五日	十二日
十日	十七日
十五日	二十二日
二十日	二十七日
二十五日	九月一日
十二月一日	七日
五日	十一日
十日	十六日
十五日	二十一日
二十日	二十六日
二十五日	十月一日

○帝國冷藏株式會社の築地冷藏庫

久しく歐米各地にありて斯業の研究を積みたる河村尊雄氏等設計の下に、地を築地明石町なる綠波岸を洗ふ處にトし、昨冬工を起し此程其竣成を告げたる同冷藏庫は、月の五日を以て盛んなる開業式を擧げたり、冷藏庫は二棟より成り建坪すべて五百三十二坪、容積約十一萬立方尺、費す所の工費金三十五萬を超えたりといふを以てしても、其規模の小ならざるを知るべし、冷藏庫の裝置は、米國より輸入したる器械によれば「アンモニヤ」瓦斯壓榨式を以てし、傍ら嶄新なる「プレート」式製冰機によりて製冰の事業にも從へり、今同會社事業の重なるものは、獸肉魚鳥、果實、蔬菜、卵、牛酪、毛皮、毛織物、蠶卵紙其他腐敗蝕の恐れある諸物品を低廉なる保管料にて保管すると共に前記諸物品の販賣並に委托販賣に任し、猶冷藏室の賃貸、冷藏物の運送、冷藏函の製賣の他製冰事業にも從ふなりといふ、本事業の進步は蓋し保健衛生の上に利する所多大なるべし。

新刊書紹介

醫學士竹中成憲著　**臨牀治療醫典**　袖珍本全一册定價金壹圓六拾錢

本書は表題の如く臨牀治療上の事項を細大となく親切丁寧に網羅せるものにして能く其の梗概を盡くされたるを以て醫家が日常臨牀の備忘に供せられなば多大の裨益を得るならむ、加之ならず病名の獨語索引及び羅馬字の索引をも附しあり、六號活字四百頁の美麗なる洋裝袖珍本なり（東京神田表神保町同文館發行）

大日本婦人衛生會記事

○本會入會者

●京橋區南八丁堀一ノ廿九　通常會員　乾つね子
○綾井きん子紹介

○新潟支會入會者

●　特別會員　平塚しげ子
○和田幹事紹介

○轉居

●清國大連濟町十三ノ一へ　吉野仲子
●本鄉區駒込動坂町四二田沢方へ　小林靜子
●兵庫縣武庫郡西ノ宮香櫨園北へ　深澤ふく子
●北海道札幌區南七、西一、十四へ　柳橋とつ子
●横濱市南太田町二一八三へ　渡邊房吉
●長崎縣高島炭坑へ　杉本ちせ子
●牛込區若宮町三十七へ　武田かれ子

嶄新なる滋養強壯劑



獨逸ハンブルヒ市コールス繼續社化學品製造部特製

赤函入

鷲印ヘマトーゲン

病後の衰弱、發育不良の小兒産婦の榮養不良、貧血症及萎黃病殊に月經過多に因する貧血等に最も良效を奏し虚弱者及體力、體量の增大を計らんと欲する人には他に見る可からざるの適劑にして當つて幾多の醫學大家は本品を旺に賞用せられ少しく持續服用するときは如何なる難症に陷りし人も必らず輕快に赴くを證せられ服藥中決して消化機能に障碍を與へず反て食慾を催進せしめ身體の全機能に新活氣を與へ精神の活力を增發せしむる等實に優秀なる鐵製劑にして加ふるに味ひ可良なるに據り小兒、婦人等服用に苦しまざる良藥なり

（全國有名の藥舗に販賣す赤函入鷲印と指定あれ）

日本代理店

大阪道修町三丁目

鹽野義三郎

電話長東五四二番　振替貯金口座[illegible]七參番

消化新藥 タカヂアスターゼ

本品は毎瓶强度一定効力永久不變なりこれ高峯博士發見の新法式に從ふ特長なり

澱粉不消化の一般徴候

醫學博士谷口吉雄氏曰く『……澱粉不消化に因する重なる徴候は胃の膨大、疼痛、溜飲、腸内瓦斯蓄積便秘若くは下痢等にして甚く營養の障害を來す是等の疾病に對しタカヂアスターゼの頗る有効なるを信ず』（説明書は直接發賣元に請求せよ郵呈す）

東京市日本橋區南茅場町貳番地

三共合資會社

滋養新劑 グリコナール錠

本品は各地有名藥舖にあり本品の説明書は直接發賣元に要求せられよ無代郵呈す

醫學博士 **北里柴三郎** 氏指導の下に化學者佐伯矩氏が牡蠣の滋養成分に就き研究創製せる本劑は滋養劑として肺病及一般病者虚弱者に必適なるのみならず之を用れば自から心臟を強め盗汗を制止し速かに體力を恢復して元氣を旺盛ならしむる特異の効顯あり

東京市日本橋區南茅場町貳番地

三共合資會社

私立大日本婦人衛生會 新潟支會規則

●第一條　本會は大日本婦人衛生會に屬し婦人衛生の研究を目的とし兼ねて一般慈善事業を爲すにあり●第二條　當支會の會費は左の六種とす終身會員一時限り出金貳拾五圓特別會員毎月金參拾錢通常會員同金貳拾錢支會員甲毎月金拾錢乙同金五錢●第三條　入會せんとするものは役員に申出て其承認を得べし●第四條　會費毎月拾五錢以上を納むるものには本會衛生雜誌を配布す●第五條　會費は雜誌料として一部を本會へ納め殘金は銀行へ貯蓄して衛生慈善資金とす●第六條　支會には會長一名副會長一名　評議員十五名幹事五名理事一名を置く會長副會長は總會に於て公撰し評議員幹事は會長之を撰任す各役員の任期は一ヶ年とし再撰するを得役員は總て無給とす●第七條　支會は毎月六日通常會を開き衛生及び慈善に關する演說をなすべし●第八條　毎年一月總會を開き支會の要務を擧行す●第九條　本會は毎年春期懇親會を催し時宜によりては慈善販賣店慈善演藝會等を開くことあるべし●第十條　天災事變に際し慈善救濟を要する塲合に於ては特に會員中の有志者より物品の寄贈を募ることあるべし會員外の篤志者より臨時金品の寄附あるときは役員の協議を以て特待員又は贊成員となすべし●第十一條　一般慈善事業の贊助天災事變の救濟の事務は役員會の決議によりて實施するものとす●第十二條　支會々員は服裝其他を質素にし集會の際は可成く綿服を著用すべし●第十三條　特に本規則に揭げざるものは私立大日本婦人衛生會の規則を準用す

明治廿九年四月創立

事務所新潟市本町通十三番戸中村しげ子方

新潟支會

私立大日本婦人衞生會 山形支會規則

第一條 本支會は私立大日本婦人衞生會々員山形市在住者を以て組織す●第二條 本支會に會長副會長の外幹事四名評議員若干名を置く會長副會長は公撰し幹事評議員は會長之を選任す 役員の任期は一ヶ年とす●第三條 本支會は毎月一回(第一日曜日)講話會を開き毎年一回(五月)總會を開き講話の外役員の撰擧庶務會計の報告をなす●第四條 入會せんと欲するものは宿所姓名並に第五條の通り會費を添へ會員に紹介を依頼すべし本支會を退會せんとする時は其旨幹事に申出づべし●第五條 本會々費は會計幹事に納むべし但し六ヶ月又は一ヶ年分新に入會のものは其月より六月又は十二月迄の分を一時に納むべし●第六條 服裝は精誠質素なるを要す上着羽織は絹布を用ゆるを禁ず

明治三十三年二月四日創立

事務所山形市旅籠町新築西通二百八十九、北島氏方

山形支會

私立大日本婦人衞生會 宇都宮支會規則

第壹條 本支會ハ私立大日本婦人衞生會宇都宮支會ト稱ス●第貳條 本支會ニ會長一名副會長一名評議員拾五名幹事四名ヲ置ク會長副會長ハ公撰シ評議員幹事ハ會長之ヲ撰任ス各役員ノ任期ハ一ケ年トス●第參條 毎月壹回(第一日曜日)講話會ヲ開キ毎年五月講話ノ外役員ノ改撰庶務會計ノ報告ヲナス●第四條 入會ハ宿所姓名ニ第五條ノ通リ會費ヲ添ヘ事務所ヘ申込ミ又ハ會員ニ紹介ヲ依頼スベシ本支會ヲ脱會又ハ本會ヲ退會セントスル件ニハ其旨事務所ニ届出ヅベシ●第五條 本會々費ノ外別ニ支會々費ヲ要セズ會費ハ一時ニ六ケ月又ハ十二ケ月分、新タニ入會ノモノハ其月ヨリ六月又ハ十二月迄ノ分ヲ納ムベシ●第六條 本支會ハ別ニ支會々員ヲ置キ支會會費トシテ一ケ月金五錢ヲ納ムルモノトス●第七條 講話會ニ出席ノ節ハ成ルベク家族又ハ知合ノ婦人ヲ誘引シ傍聽セシムベシ●第八條 服裝ハ精誠質素ナルヲ要ス上著羽織ハ絹布ヲ用フルヲ禁ズ●第九條 特ニ支會規則ニ掲ゲザルモノハ本會ノ規則ヲ準用ス

事務所宇都宮市傳馬町三十三番地、行森氏方

明治三十四年二月三日創立

宇都宮支會

明治二十六年四月四日第三種郵便物認可

私立大日本婦人衛生會徽章規程

第一條　大日本婦人衛生會會員は其會員たることを表するため左の徽章を用ゆ





○本會徽章料左の如し

○通常會員章
第三號
メッキ製拾貳錢、送費六錢

○第二號
正銀製四拾錢、送費六錢

○終身及特別會員章
第一號
七拾錢（黑塗箱入送費九錢）
六拾錢（桐箱入送費六錢）

第二條　會員章は本會並に支會の集會に出席する場合は勿論襟止兼用の便あるを以て成るべく平素佩用して廣く本會の普及を圖るを要す

第三條　本會徽章は右の實價を以て會員に頒つ

○入會注意

○御入會の際は三ヶ月以上の會費前納にて申込まるべし會員章は上段記載の實價にて御頒ち申候へども送費とも必らず御前納のこと●東京府下に限り毎月雜誌の配達を兼ね會費領收人を差出すべしと雖も郡部の方は地方會員の部として領收人差出不申候但東京府下の會員にても會費前納せられ合せて郵送料なりとも御納付相成候へば雜誌發行次第直ちに郵送可致候●追て支會々員は支會へ會費御納付のことゝす●會費は郵便小爲替にて本會事務所々在の郵便局（東京麴町區富士見町郵便局）宛振出あるべし●會費受領證を要する節は送費として郵券一錢五厘封入せられたし●轉居せられたるときは其の旨必らず本會事務所宛通知せらるべし

○會員御紹介下され候御方には其人數丈の本會雜誌を進呈す

廣告料　一頁五圓半頁其二分一以下同之　●特別廣告一頁拾圓半頁其二分一以下同之

本誌一部定價貳拾錢

東京市麴町區富士見町二丁目卅二番地
發行所　私立大日本婦人衛生會
（振替貯金口座一〇六〇〇番）
東京市下谷區竹町五番地
編輯兼發行者　齋藤淸之丞
東京市本郷區駒込千駄木林町百七十二番地
印刷者　今井甚太郎

明治四十一年九月十六日印刷
明治四十一年九月二十日發行
（毎月一回二十日發行）
印刷所　東京市本郷區駒込千駄木林町百七十二番地　杏林舍